

歩こう 調べよう ふるさと七生

(第2版)



歩こう しら調べよう ふるさと七生 なな お

◇ も く じ ◇

	タ イ ト ル	ペ ー ジ
	もくじ	
	この本を手にしてくれたみなさんに	1
	七生地域 いき のなりたち	2・3
	年表で見る七生 れきし の歴史	4・5
1	七生 ゆた の豊かな自然 し ぜん を訪ねて たず	6・7
2	大昔 おおむかし の七生にジャンプ	8・9
3	1100年を見守る み まも	10・11
4	人々の心をひき寄せるのはなぜ よ	12・13
5	牧 まき と武士団 ぶ し だん	14・15
6	平山季重 ひらやますえしげ を訪ねる	16・17
7	消えた大寺院 き だいじ いん を探ろう さく	18・19
8	後北条氏 ごほうじょうし と三沢十騎衆 みさわじっきしゅう	20・21
9	江戸時代 えど の日野にタイムスリップ	22・23
10	ほどくぼ小僧 こぞう 勝五郎 かつごろう 生まれ変わり物語	24・25
11	三多摩地域 さん た ま ち い き は神奈川県 か な がわけん だった	26・27
12	はじめはとぎれていた京王線	28・29
13	戦前 せんぜん にゴルフ場や遊園地があった	30・31
14	平山おかぼ 七生村 のうぎょう の農業	32・33
15	押し寄せた大恐慌 お よ だいきょうこう の波	34・35
16	戦争 せんそう は、遠いところのできごと？	36・37
17	旭が丘 あさひ おか に異聖歌 たつみせいか が暮らしていた頃 ころ	38・39
18	さかんだった多摩丘陵 きゅうりょう ハイキング	40・41
19	人気を集めた多摩動物公園	42・43
20	学校が次々とできた	44・45
21	どんどんつながる・ひろがる	46・47
22	図書館で七生をもっと調べてみよう！	48
	あとがき	

この本を手にくれたみなさんに

私たちの日野市の中に「七生」とよばれる地域があります。この七生にも魅力的な場所がたくさんあります。七生について、大昔から現在までの人々の暮らしや、いろいろなできごとを調べてみると、ワクワクするようなことが見つけれそうです。みなさんの気付きや発見で、「郷土」が今までとはちがって見えてきたり、いっそう身近に感じられたりすることでしょう。

この本を読んだみなさんが、「面白そう!」「なぜ?」「どうして?」という思いを抱き、七生のいろいろな場所に出かけたり、人と会ったりして、様々な時代のことを調べてくれるとうれしいです。



十十のすけ

ぼくが、関係あることが載っているページに案内するよ。矢印の中の数字のページを見てね。(下は、「平山季重を訪ねる」の矢印の例だよ。)

14, 20, 28, 29, 33, 40, 41



マメぴょん

わたしは、豆知識を紹介します。みんなに「へー!」と言ってもらえるようなお話を集めたよ。楽しんでね。

見学とインタビュー必勝法

- 出かける前に、「何を調べるのか」「どんなことを質問するのか」をはっきりとさせておこう。
- お寺や会社を訪問するときは、まず事務所などで自己紹介をし、見学目的を伝えよう。(入場料が必要な場所や、展示してなくて見られないこともあるので注意)
- 個人に対して質問をするときは、「お聞きしたいことがあるのですがよろしいですか。」と、まず相手のご都合をうかがおう。
- 写真を撮りたいときは、「写真を撮らせていただいてもいいですか。」と、確かめよう。
- 説明や感じたこと、考えたことなどをすぐにメモしよう。(文章で書くと話に追いつかなくなるので、「数字」「単語」などで簡単に書くのがメモのコツだ)
(例)「毎日100人のお客さんが来ます。」→「まいにち、100人」
- 帰るときにはキミの感想を伝えて、お礼を言おう。

七生地域のなな

明治22年(1889)に、平山村、南平村、高幡村、程久保村、三沢村、落川村、百草村の七つの村が合併して「七生村」が誕生した。

七生地域は、丘陵地と浅川の間であり、水や食料となる動植物が豊かで、古くから人々が生活していた。

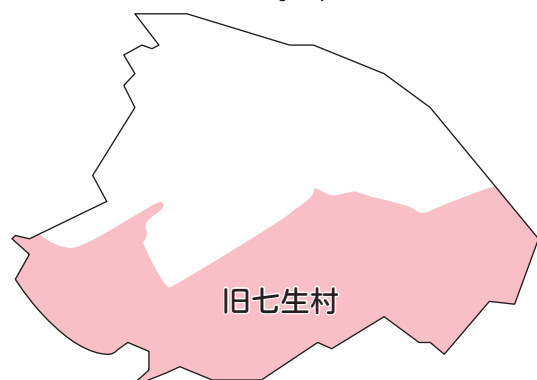
1100年ほど前の平安時代には、落川のあたりに「牧」と呼ばれる牧場が作られ、育てた馬を朝廷に納める人々が現れた。

戦国時代には、小田原城主北条氏康、八王子城主北条氏照の支配下に置かれた。北条氏滅亡後は徳川家康の支配地となり、明治の初めには、品川県や荏原県になった。

明治4年(1871)からは、七生地域を含む南多摩郡は、神奈川県の一部になった。明治26年(1893)に、多摩地区は、東京の水源地確保などの理由で東京府に移り、現在に至っている。

採集や狩猟の時代から農業の時代へ、農業の時代から工業の時代へという世の中の移り変わりとともに、七生地域も姿を変え、今日も変化し続けている。

日野市



七生村

日野町

平山

平安時代から鎌倉時代のはじめにかけて活やくした平山季重の本拠地といわれている。

現在、宗印寺には、平山季重の像がまつられている。

また、丈太おかぼを作った農業功労者の林丈太郎の墓もある。

浅川の北側、今の西平山、東平山、旭が丘のあたりは、平山の人たちが雑木林を開墾して畑や桑畑を作った土地だ。

明治6年(1873)宗印寺で平山学校が開校した。

八王子市



由井村

南平

鎌倉時代に平姓の人が支配していたので「平村」となっていたといわれている。明治11年(1878)八王子の平村と区別するために「南平村」とした。享保(1700年代前半)の頃、地域の人々が高倉原(現八王子を含む)を開墾し、畑にした。

昭和の初め頃は、浅川から離れた台地の上に集落があり、周りは桑畑で、台地の下に水田があった。

明治6年(1873)寿徳寺で種徳学校が開校した。

昭和22年(1947)七生村役場庁舎を仮校舎として、七生中学校が開校した。

な り た ち

高 幡

平安時代から続く高幡不動尊（金剛寺）は、人々の信仰を集めている。

享保年間（1720頃）、高幡の人々が高倉原（現八王子を含む）を開墾して、畑地にした。

昭和の終わり頃まで、高幡不動駅の南側には水田があった。

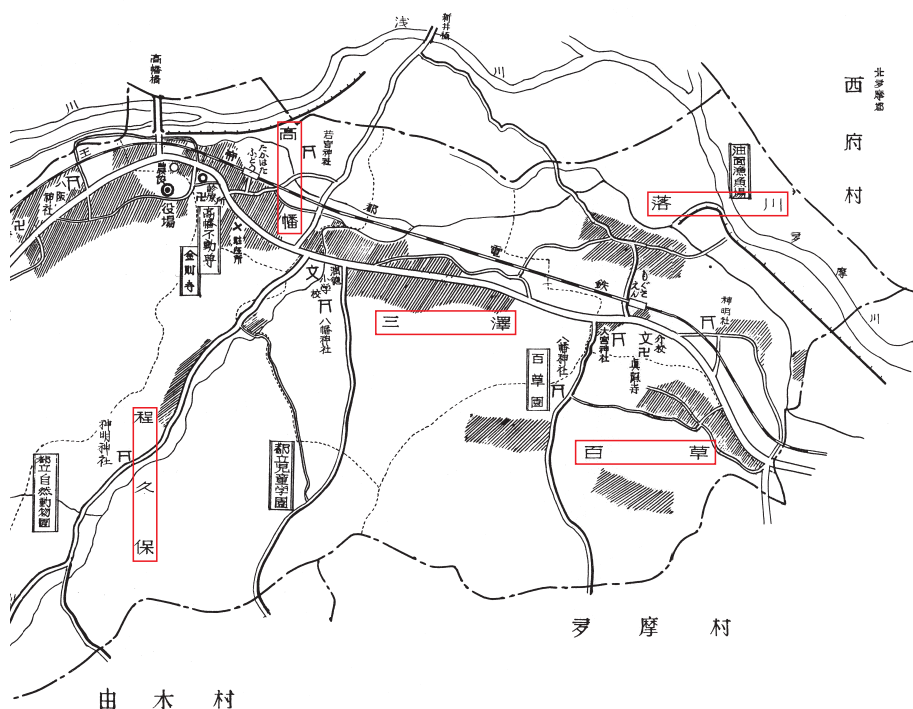
落 川

多摩川、浅川、程久保川に面した低地である。奈良～鎌倉時代の遺跡「落川・一の宮遺跡」が発掘調査された。馬具が発掘されたことや、すぐ隣の多摩市一ノ宮に小野神社があることから、この一帯は「小野牧」と呼ばれる馬を育てていた場所だったのではないかと考えられている。

明治9年（1876）真照寺で昭景学校が開校した。

全 図

昭和27年版の地図



百 草

昔、草が生い茂っていた場所なので、「茂草」と言ったらいい。鎌倉幕府のあった鎌倉から武蔵や下野（今の栃木県あたり）方面に行き来するための重要な街道「（鎌倉街道）上道」に接している。

「真慈悲寺」があった。

江戸時代には徳川氏の所領となり、いく人もの代官が役割を受け継いで支配した。

み 三 沢

湯沢川が湯沢、中沢、小沢の三つの沢を流れ下ることから三沢村と呼ばれる。天正年間（1573～1592）「三沢十騎衆」が小田原城主北条氏政の弟で八王子城主である北条氏照に仕えていた。

明治6年（1873）医王寺で潤徳学校が開校した。

ほ 程 久 保

山間（谷戸）に細長くできた集落であった。村の中央を流れる程久保川に沿って道が通じた。川に近いところで稲作を行い、山を開墾して桑畑にした。

人口が少なく、明治9年（1876）に27戸、昭和7年（1932）に32戸であった。昭和33年（1958）に多摩動物公園が開園したとき、道路はまだ未舗装であった。

ねんぴょう 年表で見る七生の歴史

● 七生に関係が深いできごと

■ 日本、東京、日野に関係あるできごと

◆ 日野市の小学校に関するできごと



きゅうりょう
浅川、七生中、七生丘陵が見える



たかはたふどうそん
高幡不動尊金剛寺



市指定有形文化財 文永の板碑



やくば
七生村役場（『七生村史』より）



ぎょくなん てつどう
玉南電気鉄道（郷土資料館提供）

時代	年号	西暦	できごと
縄文	約6,000年前		● 七生地域に人々が暮らし始めた。
弥生	約2,000年前		● 平山に集落ができた。
	239		■ 卑弥呼が魏に使臣を送った。
古墳(天和)	約1,500年前		● 平山（2丁目あたり）に直径30m以上の円墳ができた。
	538		■ 大陸から仏教が伝わった。
	約1,350年前		■ 武蔵国ができた。
奈良	和銅 5	712	■ 武蔵国から布を「調」（特産品で納める税）として納め始めた。
		755頃	■ 武蔵国分寺が完成した。
平安	約1,200年前		■ 武蔵国に「牧」がつけられた。
	承平元	931	● 小野牧が朝廷の牧になった。
	約1,100年前		● 慈覚大師が高幡の山中に不動堂を建てたといわれる。
	治承 4	1180	● 武蔵七党が源頼朝に味方した。
鎌倉	建久 3	1192	● 平山季重が宇治川、一の谷の戦いで活躍した。
	文治 2	1186	● 真慈悲寺が再興された。
室町	建武 2	1335	■ 源頼朝が征夷大将軍になった。
	康永元	1342	● 大風が吹き高幡の不動堂や真慈悲寺が倒れた。
	康正元	1455	● 儀海上人が高幡の不動堂をふもと（現在の場所）に建てた。
	永禄10	1567	● 立河原の戦いで敗れた上杉憲顕が高幡不動で亡くなった。
安土桃山	天正 16	1588	■ 佐藤隼人が日野用水をつくった。
	天正 18	1590	● 北条氏照が三沢衆を八王子城に招集した。
	1500年代終～1600年代		■ 八王子城が落城した。豊臣秀吉が全国を統一した。
	慶長 5	1600	● 七生地域の各村が徳川の支配地になった。
江戸	慶長 8	1603	■ 関ヶ原の戦いが起き、東軍が勝利した。
	承応 3	1654	■ 徳川家康が征夷大将軍になった。
	文政 5	1822	■ 玉川上水ができた。
	文久 3	1863	● 勝五郎生まれ変わりの話が評判になった。
	慶応 3	1867	■ 近藤勇、土方歳三たちが新選組をつくった。
明治	明治 4	1871	■ 15代将軍徳川慶喜が政権を天皇に返上した。（大政奉還）
	明治 5	1872	■ 藩を廃止し、県を置いた。日野は神奈川県に所属した。
	明治 6	1873	■ 学制が公布された。
	明治 7	1874	◆ 日野学校、下田学校、潤徳学校、平山学校、種徳学校ができた。
	明治 9	1876	◆ 豊田学校ができた。
	明治 11	1878	◆ 昭景学校ができた。
	明治 22	1889	◆ 種徳学校（明治8年に「平学校」と校名を改称）が潤徳学校と合併した。
	明治 26	1893	● 平山村、南平村、高幡村、程久保村、三沢村、落川村、百草村が合併し、神奈川県南多摩郡七生村ができた。
	明治 34	1901	■ 南多摩郡が東京府に入った。 ■ 日野宿が日野町になった。
	明治 41	1908	■ 日野町と桑田村が合併した。
	明治 42	1909	◆ 下田小学校、豊田小学校が日野小学校の分教場になった。
大正	大正 6	1917	◆ 昭景小学校が潤徳小学校の落川分教場になった。
	大正 7	1918	● 七生村の一部に電灯がともった。
	大正 12	1923	● 林丈太郎のおかぼが「東京平山」と名付けられた。
	大正 14	1925	■ 関東大震災が起きた。
	大正 15	1926	● 府中～東八王子間に玉南電気鉄道が開通した。
			● 武蔵野カンツリークラブ平山コースが開場した。
			● 高幡～立川間にバスが運転を開始した。
			● 玉南電気鉄道が京王電気軌道と合併した。

時代	年 号	西 暦	で き ご と
昭和	昭和 3	1928	🟡 京王電気軌道新宿～東八王子間の直通運転開始。
	昭和 5	1930	🟢 昭和大恐慌が起きた。
	昭和 7	1932	🟡 七生村が経済更生指定村に指定された。
	昭和 9	1934	🟡 多摩八王子競馬場が現在の旭が丘にできた。
	昭和11	1936	🟡 鮫陵源が開園した。(昭和18年閉園)
	昭和14	1939	🟡 程久保の地に満蒙開拓のための拓務訓練所が開かれた。
	昭和16	1941	🟢 太平洋戦争が始まった。
	昭和18	1943	🟢 東京都制が始まった。 🟡 北野街道（都道）が開通した。
	昭和20	1945	🟢 「東京大空襲」があった。 🟡 日野に爆弾が投下された。 🟢 広島・長崎に原爆が投下された。 🟢 太平洋戦争が終わった。
	昭和21	1946	🟢 豊田分教場が豊田小学校になった。
	昭和23	1948	🟢 日野小学校日野台分校ができた。
	昭和25	1950	🟢 日野台分校が日野台小学校になった。
	昭和28	1953	🟢 町村合併促進法が施行された。
	昭和30	1955	🟢 下田分教場が日野第四小学校になった。 🟢 日野小学校が日野第一小学校になった。 🟢 豊田小学校が日野第二小学校になった。 🟢 日野台小学校が日野第三小学校になった。
	昭和33	1958	🟡 七生村が日野町と合併した。 🟡 多摩動物公園が開園した。
	昭和34	1959	🟢 日野第五小学校ができた。
	昭和38	1963	🟢 一番橋が開通した。 🟡 日野町が日野市になった。
	昭和39	1964	🟡 公社平山住宅ができた。 🟡 都営南平住宅ができた。 🟢 東京オリンピックが行われた。 🟡 動物園線が開通した。 🟢 日野第五小学校芝山分校ができた。
	昭和40	1965	🟢 芝山分校が日野第六小学校になった。
	昭和44	1969	🟡 都営日野平山アパートができた。 🟡 百草団地ができた。 🟢 日野第八小学校ができた。
	昭和45	1970	🟡 高幡台団地ができた。 🟢 百草台小学校ができた。
	昭和46	1971	🟢 滝合小学校ができた。
	昭和47	1972	🟢 高幡台小学校ができた。
	昭和48	1973	🟡 平山台区画整理事業が完成し、「旭が丘」と名付けられた。 🟡 都営日野三沢アパートができた。 🟢 日野第七小学校ができた。
	昭和49	1974	🟢 南平小学校ができた。
	昭和52	1977	🟢 旭が丘小学校ができた。 🟢 程久保小学校ができた。
	昭和53	1978	🟡 落川遺跡発掘が始まった。 🟢 平山台小学校ができた。
	昭和54	1979	🟢 東光寺小学校ができた。
昭和55	1980	🟢 三沢台小学校ができた。	
昭和59	1984	🟢 仲田小学校ができた。	
平成	平成元	1989	🟡 南平丘陵公園ができた。
	平成12	2000	🟡 多摩都市モノレールが全線開通した。
	平成14	2002	🟢 高幡台小学校と程久保小学校が合併し、夢が丘小学校ができた。
	平成18	2006	🟢 平山小学校と平山台小学校が合併し、新しい平山小学校ができた。
	平成19	2007	🟢 日野バイパスが開通した。
	平成20	2008	🟢 百草台小学校と三沢台小学校が合併し、七生緑小学校ができた。
	平成23	2011	🟢 東日本大震災が起きた。
	平成27	2015	🟢 日野第二小学校が豊田小学校になった。
令和	令和元	2019	🟢 台風19号で日野橋が破損した。

1 七生の豊かな自然を訪ねて



高幡台団地第二緑地（郷土資料館提供）
（日野第三中学校裏）

お気に入りの風景はどこにある？

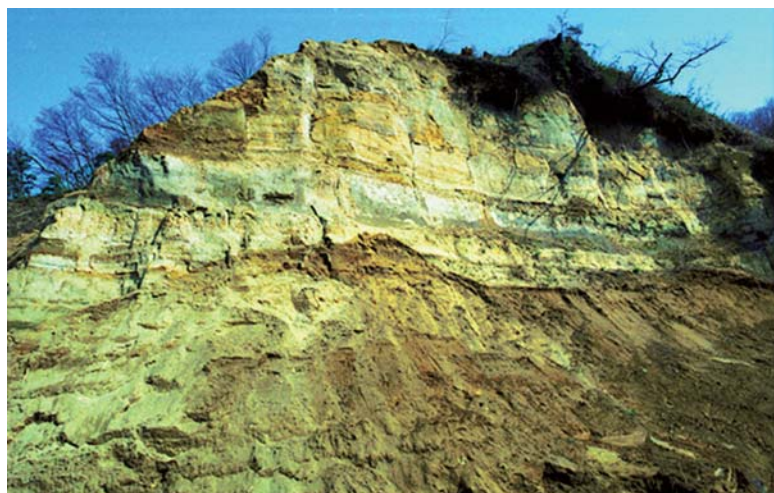
緑豊かな七生丘陵は、おなじみのふるさとの風景。遠く丘陵をながめたり、坂道を歩いたりすると地形の変化が楽しめる。丘陵、台地、河川など、日野市には実に様々な地形が見られる。そんな日野だからこそ、昔から人々は自然とかわりながら暮らしてきた。四季の変化も楽しみながら、日野の自然を訪ねてみよう。



南平丘陵公園（郷土資料館提供）

大昔は海だった！

今から150万年くらい昔、日野はクジラが泳ぐ海だった。その頃は、丘陵も多摩川も無く、全体が海だった。だから、七生丘陵からも貝の化石が発見されている。



海が浅くなったり深くなったりを繰り返して、今からおよそ50万年前に陸地となった。その後長い時間をかけて、今のような地形になった。

工事中の三沢の崖（写真左）

崖の縞模様は、かつて海だったときにできた地層。（現在は見る事ができない）（郷土資料館提供）

多摩川でも化石を発見



アケボノゾウの足跡（左）と
牙（中）の化石（郷土資料館提供）



水辺のぬかるんだところを歩いた象の足跡が残った。



クジラの化石（郷土資料館提供）

公園や散策路、用水など身近な場所で自然を楽しもう

丘陵の林は、いろんな種類の樹木があって、林の地面には小さな草花もたくさん見られる。
昔の人は、コナラやクヌギの木を中心に育てながら、薪や炭にして使っていた。
雑木林は、さまざまな生き物にとって、今も大切なすみかとなっている。



ヤマザクラ



タチツボスミレ



エゴノキ



アナグマ



市の鳥カワセミ



サワガニ

用水と河川～水辺の自然～

丘陵から小さな川が流れ出て低地に向かい、やがて浅川にそそぎこむ。丘陵を流れる川や、浅川から引いた用水で、稲作が行われてきた。田んぼは減ってしまったが、それでもまだ、日野では田園風景が見られる。水辺の生き物にも出会うことができる。



ひとお 人通りの多い建物でツバメが子育て



向島用水と新井の田んぼ

毎日が自然とのふれあい

足元のアリの巣、駅のスバメの巣…私たちのすぐ近くでも、さまざまな生き物に出会うことができる。目、耳、鼻、手ざわりなど、体全体で光や風、自然を感じることができる。

見上げる、しゃがんで見る、近寄って見る、耳をすませる…いろいろしてみると、新しい発見があるんだ。



2 おおむかし なな お 大昔の七生にジャンプ

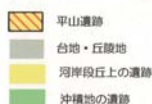
ひらやま い せき
□平山遺跡から大昔の人々の暮らしを見る



西平山、東平山、豊田にかけて、「平山遺跡」がある。発掘調査によって、たくさんの石器や土器が発見された。住居のあとや古墳も見ついている。浅川に近く、段上の平らな住みよい場所なので、4000年以上前から人が利用していた土地だ。



縄文時代の石器



顔面把手

約二万二千年前

縄文時代

人々は、食料となる木の実や動物などを求めて、移動する生活をしていました。石や動物の骨で作った道具を使った。

捕まえた魚や動物、集めた木の実を、土器に入れて、たくわえたり煮たりした。土器に縄目文様が見られるものがあることから、「縄文土器」と呼ばれている。

平山遺跡では、大小さまざまな縄文土器が見つかった。

平山遺跡から出土した縄文土器

模様

縄を使って、波のようなきれいな模様をつけている。うず巻き模様には、動くエネルギーが感じられる。

形

底が細く、口が広がっている。立たせておくには、少しバランスが悪そうだ。



色

こげ茶色がまばらについている。たきぎから出たすすで黒っぽくなっているところも見える。

大きさ

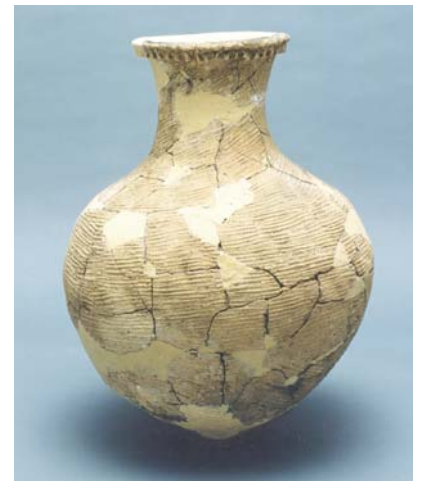
一番広いところは約60cmある。かなり大きな土器だ。

平山遺跡からは、いろいろな時代の様々な模様、大きさ、色、形の土器が見つかった。

約二千三百年前

弥生・古墳時代

この時代には、稲作が行われるようになり、人々は米を食べるようになった。穀物を貯蔵することが可能になった。貧富の差が生まれ、争いが多くなった。鉄の道具も使うようになった。縄文土器より薄くて硬い「弥生土器」が作られた。



弥生時代の土器



大名淵公園近くでは、縄文時代の住居跡、弥生、古墳時代のお墓がたくさん見ついている。遺跡からは、7,983点もの遺物（石器、土器、青銅器など過去の人が残した物）が出土したんだ。



周りを四角く溝で囲んだお墓「方形周溝墓」



方形周溝墓から出土したガラス小玉

約千二百年前

奈良・平安時代

平安時代、日野のあたりは「武蔵国」の一部だった。武蔵国の政治の中心は府中で、「国庁正殿」という大きな建物があった。日野でも、近年の発掘調査で、同じような大きな掘立柱建物の跡が滝合小学校の近くで見ついている。

この建物跡から、「四面廂建物」だったことがわかる。建物を大きく、立派で格式が高いものに見せるための工夫がされている。桁行（建物の長い方向）約22m、梁行（建物の短い方向）約11mで、都内では府中の「国庁正殿」に次いで二番目の大きさだ。周りでは、他にも大きな建物跡や、全体を囲む大きな溝などが見ついている。どんな人たちが、何のためにこのような建物を建てたのだろう。古文書にも、詳しいことは書かれていない。

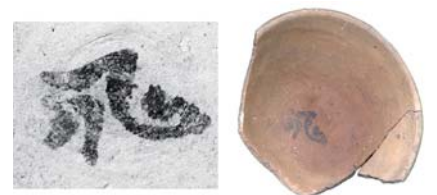
世の中は平安時代から中世へ、貴族から武士の時代へと移り変わっていく。現代になって発掘調査された西平山の建物跡群は、まだよく知られていない日野を含めた多摩地域の動きを解き明かす重要な手がかりだ。



武蔵国府の公的建物復元想像図



四面廂建物跡



四面廂建物跡周辺の
竪穴建物出土の墨書土器

現代

未来



3 1100年を見守る

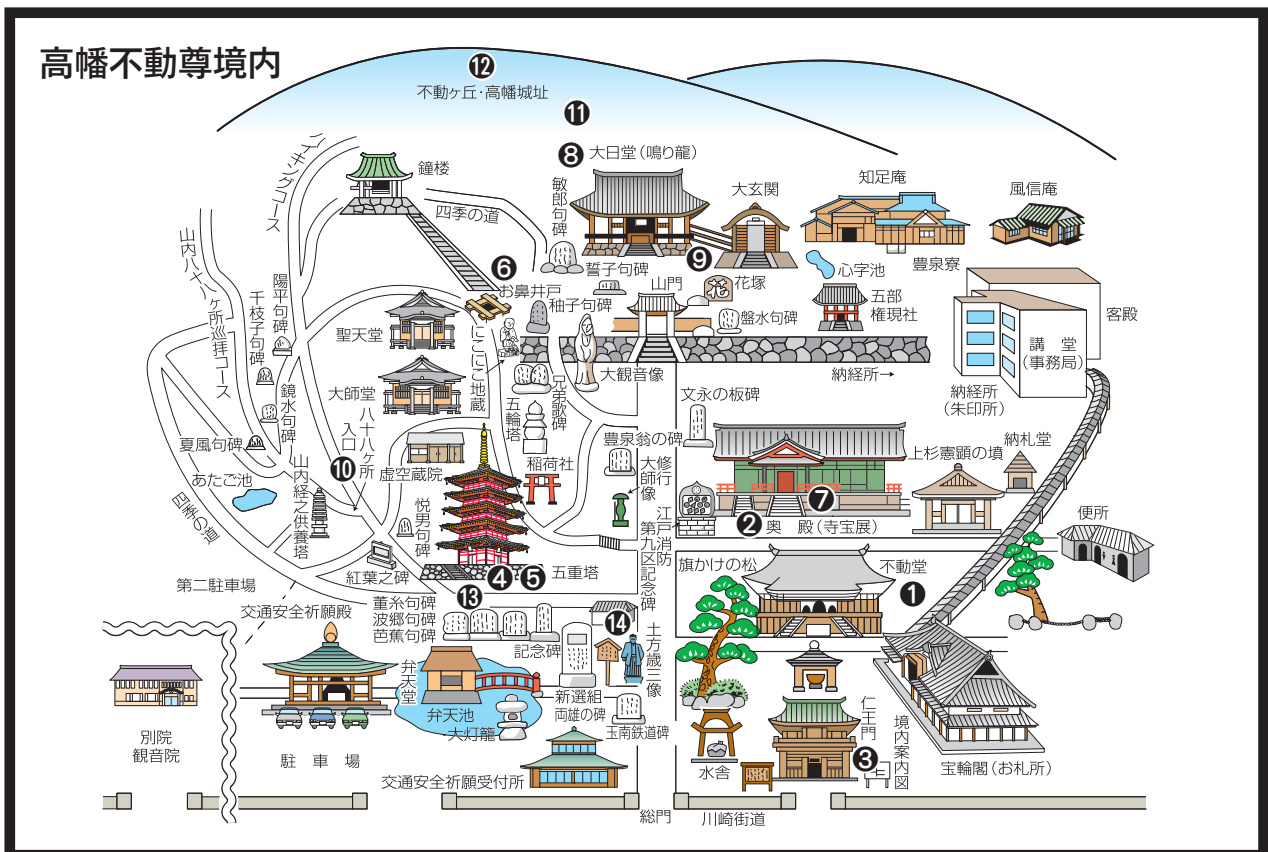
とうごく へいあん ねが ひら たかはた ふ どうそん まんさい
□東国の平安を願って開かれた高幡不動尊は見どころが満載



① 約1100年前、清和天皇が「東国を守る霊場を」と願い、慈覚大師円仁が高幡の山中に不動堂を建てた。後に、儀海上人がお堂を麓の現在の場所に再建。重要文化財。



② 丈六不動三尊像は、木造で重さ1100kg以上。平成の大修復が終わり、奥殿に安置。1100年間見守り続ける厳しい目の奥には優しさも。重要文化財。



③ 仁王門 右が阿形像、左が吽形像



④ 五重塔は高さ40m 金色の輝きが見事



⑤ 五重塔の地下に三千体の地蔵尊



⑥ お鼻井戸は、嵐で倒れたお不動様の鼻の跡



⑦奥殿前のお手綱はお不
動様の左手につながる



⑧大日堂の鳴り竜に手
を打って願いごと



⑨水琴窟に耳を澄ませて
地中からの水音を聞く



⑩八十八か所をめぐるコースは、
約1時間



⑪コースわきの黒松
に戦争中の傷あとが



⑫高幡城本丸があった
といわれる山の頂上



⑬境内ではたくさんの石
仏に会える



⑭新選組土方歳三像
(歳三の位牌は大日堂に)

高幡不動尊の歴史年表

年号	西暦	できごと
貞観	860年頃	清和天皇の願いで慈覚大師が山中に開いたといわれている。 (大宝年間(701~)に行基が創設との説もある。)
天喜4年	1056	源頼義が戦勝祈願したと伝わる。
建武2年	1335	大風で山頂の不動堂が倒壊した。
康永元年	1342	山の麓に不動堂が再建された。
康正元年	1455	上杉憲顕が立河原の戦いで敗れ自害。
安永8年	1779	大火で大日堂や山門などを焼失。
文政5年	1822	勝五郎生まれ変わりの話が起きた。
昭和55年	1980	五重塔が完成した。
昭和62年	1987	大日堂が復元された。
平成7年	1995	土方歳三像が建立された。
平成9~11年	1997~1999	丈六不動三像の修復をした。

建武2年(1335)8月、大風が吹き、山の上の不動堂が倒れてしまった。康永元年(1342)、東国屈指の名僧儀海の努力によって、不動堂は山の下に再建された。

儀海の教えを受けたいと、各地から多くの僧が集まってきた。高幡不動尊は、東国でも名高い学問と文化の場になっていった。

鎌倉時代以後は武士に尊ばれ、江戸時代になると、火災除けの不動明王として広く庶民の信仰を集めるようになった。



「重要文化財」は、日本にある歴史的・芸術的・学術的に価値が高い建物・美術品・歴史資料などの文化財を、文化財保護法に基づいて文部科学大臣が指定したものだ。その中でも特に価値が高いものが「国宝」に指定されている。ちなみに、日本でいちばん国宝・重要文化財が多い都道府県は、東京都だよ！

行き方

☆京王線 高幡不動駅から徒歩3分

☆多摩都市モノレール 高幡不動駅から徒歩5分

☆京王バス 高幡不動駅バス停から徒歩3分

高幡不動尊 高幡山金剛寺

所在地

〒191-0031

日野市高幡733

電話 042-591-0032

FAX 042-593-3038



高幡不動尊
および周辺

12, 13, 18, 20, 21, 23, 24, 25,
28, 29, 31, 36, 37, 40, 41



よ 4 人々の心をひき寄せるのはなぜ

□ 学問と文化の場、^{しんこう}信仰の場だった^{たかはた ふ どうそん}高幡不動尊に 今、^{おおぜい おとず}国の内外から大勢が訪れる



^{え ど めい し ょ ず え えが}江戸名所図会に描かれた高幡不動尊（郷土資料館提供）

時代とともに変わっていった人々のかかわり

貞観2年（860）頃、^{せい わ てんのう}清和天皇の願いを受けた^{じ かくだい し えんにん}慈覚大師円仁が、高幡の山中に不動堂を開いたといわれている。やがて、^{とうごく}東国で武士が力をもつ時代になると、その信仰を集めた。建武2年（1335）、大風で不動堂が倒壊した。^{こうえいがんねん}康永元年（1342）、東国で指折りの名僧^{めいそう ぎ かいしやうにん}儀海上人が不動堂を山の麓に再建すると、儀海の教えを受けようと大勢の僧が集まってきた。約500年前の戦国時代には、^{ひ ぶせ}「汗かき不動」と呼ばれて^{ぶしやう}戦国武将たちに信仰された。

江戸時代には「火防の不動尊」と呼ばれて庶民の信仰を集めた。大正14年（1925）^{ぎよくなん}玉南電気鉄道^{かいぎやう}の開業とともに「高幡駅」ができ、高幡不動尊を訪れる人が増えて、^{もんぜんまち}門前町ができていった。戦争中には、品川区の小学生が戦火を逃れて疎開してきた。現在は、^{げんざい}たくさんの見所と^{さまざま}様々な行事があって、子供からお年寄りまで男女を問わずあらゆる年齢層の人々が山門をくぐってくる。海外の様々な国からの観光客が増えている。



開業当時の高幡駅
（郷土資料館提供）



高幡不動尊参道
昭和39年（1964）
（郷土資料館提供）

門前町の様子



門前にはいろいろなお店がある。この店には
じゅんばんま ぎょうれつ
順番待ちの行列ができていた。

「門前町」というのは、大きなお寺や神社の^{まわ}りにできた^{しょうばい}商売の町のことだ。参拜者^{さんぱいしや}を相手に、食^{あいて}べ物、お土産^{みやげ}、洋品店^{ようひん}などのお店が立ち並^{なら}んでいる。

高幡不動尊 年間行事

- 1 月元旦・2 日・3 日 元朝祈願大護摩修行
1 月元旦～節分 厄除ほのほのうちわ授与
1 月15日 初弁天祭
厄病除牛王宝印印可
1 月21日 初弘法大師
1 月28日 初不動大祭
稚児練供養・だるま市
1 月31日 豆煎り式
2 月節分 豆撒式
2 月15日 涅槃会（釈尊入滅法要）
3 月21日 弘法大師正御影供（彼岸会）
4 月 8 日 花まつり（釈尊降誕会）
4 月28日 春季大祭
国宝まつり・稚児練供養
5 月第 3 日曜 新選組まつり
5 月28日 正五九例祭
6 月 1 日～7 月初旬 あじさいまつり
6 月15日 青葉まつり（弘法大師 興教大師誕生会）
8 月15日 うら盆大施餓鬼法要
9 月28日 秋季大祭 大般若会
10月下旬～11月中旬 菊まつり
11月 中 七五三詣
11月下旬 もみじまつり
11月23日 万燈会・もみじ灯路
12月冬至 星まつり
12月28日 納めの不動尊・年の市
12月31日 除夜の鐘供養



ござれ市



あじさいまつり



げつれいしゃきょうかい
月例写経会



ちごねりくよう
稚児練供養



豆まきのかけ声といえば、「鬼^{おに}は外、福は内」。だけど高幡不動尊では、「福は内」だけを使う。「不動明王^{みょうおう}」が境内^{けいだい}を護^{まも}っているので、「鬼はいない」からだ。

高幡不動尊 毎月の行事

- | | | | |
|------|---|-----|----------------------------------|
| 15日 | お焚き上げ ^た | 21日 | 月例写真会 ^{れいしやきようかい} (1時半) |
| 24日 | 千体地蔵尊 ^{じぞうそん} 月例 ^{えこう} 回向 | 28日 | お不動様のご縁 ^{えん} 日 |
| 第1火曜 | 俳画 ^{はいが} 教室 | | |
| 第2日曜 | フリーマーケット(リサイクル市) | | |
| 第3日曜 | ござれ市(がらくた市) | | |

高幡不動尊パンフレットから 平成30年（2018）6月



10, 11, 18, 20, 21, 24, 25,
28, 29, 31, 36, 37, 41

5 まき ぶ し だん 牧 と 武 士 団

□高幡の山に不動堂が建った頃、東国で武士団が活躍^{かつやく}した



日本在来馬 山梨県・紅葉台木曾馬牧場

馬は、今の競走馬^{きょうそうば}とは違^{ちが}っていた

古墳時代の遺跡から、馬の骨や馬具が出土している^{こふん いせき ほね ばぐ}ので、当時、馬が飼育^{しいく}されていたと考えられる。

この頃の馬は、体高^{こころ かた}（肩までの高さ）が、120cm位だったようだ（サラブレッドは160～170cm）。丈夫^{じょうぶ}で、後脚^{あとあし}が発達^{はったつ}しており、日本の険しい山道^{けわ}で荷物を運ぶのに適^{てき}していた。

牧と武士団のおこり

馬の軍事的利用^{ぐんじてき}が行われるようになり、7世紀^{せいせき}はじめには朝廷に馬を管理^{かんり}する役職^{やくしよく}があった。8世紀はじめの頃、天皇の指示^{てんのう しじ}で牧^{ぼくじょう}（牧場）の開発が始まった。武蔵国^{むさしのくに}では、「由比牧」「小川牧」「石川牧」及び「立野牧」の4牧が作られ、承平元年（931）に「小野牧」が朝廷の牧になった。

牧では馬を生産^{せいさん}し、年に一度、決められた数の馬を朝廷に納めた。

中央から地方に下った貴族^{きぞく}が、農民^{のうみん}の支配^しや武力の行使^{こうし}を認められることで領主化^{りょうしゅ}し、武士団が形成されたようだ。



武蔵七党

○ は、各党の分布の中心部を示す。

武蔵七党と日奉宗頼

平安時代から室町時代にかけて、武蔵国を中心に活動していた武士団を、室町の頃から「武蔵七党」と呼ぶようになった。「七」は「多い」という意味で、実際には9党（野与党、西党、私市党、児玉党、横山党、丹党、村山党、猪俣党、綴党）あった。西党は現在の府中から八王子やあきる野辺りの牧を支配していたようだ。西党を築いた日奉宗頼は、日野市栄町にある日野宮神社に祀られている。日野の名前の由来とも言われている。平山季重は宗頼の子孫であるらしい。

牧に向いている土地

「黒ボク土」は、火山灰土と植物が枯れて腐ったものが混ざってできた土だ。武蔵国は、この黒ボク土でおおわれている場所が多い。この土は植物の生育に適している。そこに生育するスキヤシバやササ類^{ささるい}などが馬のえさになった。やがて、低地では農業^{のうぎょう}がいつそう活発になり、牧は東北地方に移っていった。

おちかわ いち みや い せき お の の まき
落川・一の宮遺跡と小野牧

日野市落川819に落川遺跡の看板がある。この遺跡は、昭和52年（1977）に、落川住宅の建設工事中に発見された。遺跡は多摩市一ノ宮まで広がっているのので、「落川・一の宮遺跡」とも呼ばれる。古墳時代から鎌倉時代までの人々の生活の跡だ。約500の竪穴住居を始め、井戸、鍛冶炉、溝、畑などの跡が発掘された。落川遺跡は日本を代表する古代の大規模で貴重な遺跡だ。

出土品には馬具もあり、この辺りは「小野牧」の一部だったのではないかと考えられている。



空から見た発掘当時の落川遺跡
（東京都教育委員会蔵）



出土した鉄製品（東京都教育委員会蔵）



落川遺跡公園



落川遺跡公園の説明板

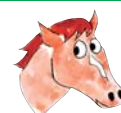


武蔵一之宮小野神社



落川遺跡とその周辺

落川・一の宮遺跡のすぐ東隣、多摩市一ノ宮に小野神社がある。武蔵国には一之宮から六之宮まである。それぞれが武蔵七党と関わりがあったらしい。小野神社は、西党・横山党との関係が強かったようだ。



6 ひらやま すえしげ たず 平山季重を訪ねる

□900年以上昔、^{みなもと}源 頼朝にその力を認められた^{ぶしょう}武将がいた



平山季重（郷土資料館提供）



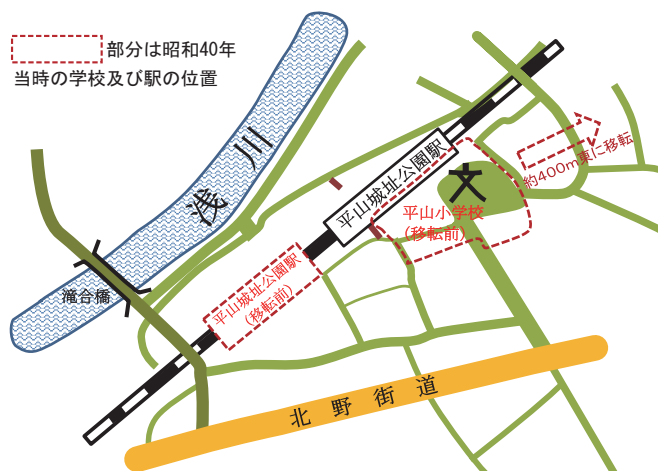
平山小学校の「すえしげ広場」

平山小学校に「すえしげ広場」がある。かつて、校地は京王電鉄平山城址公園駅^{しょうし}の南側にあった。この場所は、平山季重の館^{やかた}（家）だったとされている。



出口公園

駅の北東に「出口公園」がある。ここは館の出口があったとされる場所だ。このあたりの地名に大出口、小出口があった。



以前平山小学校があった場所



平山城址公園駅前にある季重公霊地の碑と平山季重遺跡の碑



七生村青年団が建立した「季重公霊地の碑」除幕式
大正13年（1924）

平山季重とはどのような武将だったのか



宗印寺にある平山季重の像

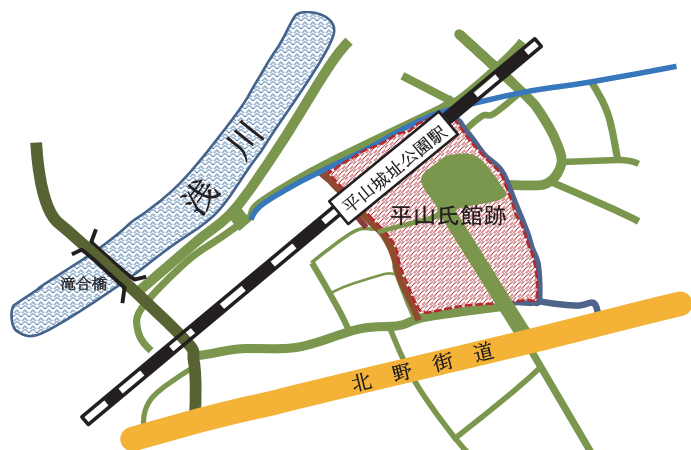


ひょうご けんこう べ
兵庫 県神戸市にある一ノ谷の戦いの地



季重神社

年	季重に関するできごと
不 明	日奉宗綱の四男平山直季の子として生まれた。
久寿 2 年 (1155)	後白河天皇の御所を守る武士に選ばれた。
保元元年 (1156)	保元の乱。源頼朝の父義朝の軍に加わって初陣を遂げ、後白河天皇側の勝利に貢献した。
平治元年 (1160)	平治の乱に参戦。平清盛が平家軍を率いて応戦したため、近江（現滋賀県）から辛うじて平山郷に逃げた。
治承 4 年 (1180)	伊豆で挙兵した頼朝の軍に加わった。
寿永 3 年 (1184)	宇治川の戦いで源義仲に勝利した。一の谷の戦いで熊谷直実と共に平家の軍に突入し、勝利のきっかけを作った。
文治 5 年 (1189)	奥州合戦で戦功を挙げ、鎌倉幕府の高い地位に取り立てられた。
建久 3 年 (1192)	頼朝の子実朝が誕生したとき、鳴弦（魔を払うまじない）の役を任せられた。
建久 6 年 (1195)	頼朝が東大寺大仏殿を参詣し、その供をした。
建暦 2 年 (1212)	この年に病気で没したという説がある。



平山季重の館があった場所

現在も平山季重は地域にとって大切な人物だ



10月に行われる平山季重まつり



保護者・地域が力を合わせて、
「すえしげ広場」の整備



季重の活躍を伝える書物がある。『平家物語』には、15騎で500騎に挑み、名を轟かせたことが、また、『吾妻鏡』には、「命を惜しまずに戦い、手柄をたてた」と頼朝からほめられたことが書かれている。



14, 20, 28, 29, 33, 40, 41

7 消えた大寺院を探ろう

□ 真慈悲寺は平安時代から鎌倉時代にかけて百草にあった瓦屋根の大寺院。今は姿を消したが、手がかりはたくさん残っている。



「銅造
阿弥陀如来坐像」
背中に「真慈悲寺」
の文字が刻まれている。
鎌倉時代 建長2年（1250）
（重要文化財）

正面

（百草八幡神社所蔵）

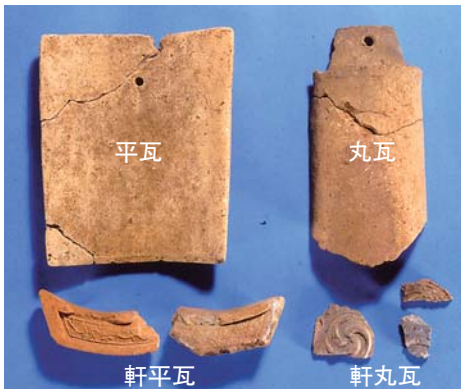


背中



③ 百草八幡神社境内の奉安庫

阿弥陀如来坐像がおさめられている。八幡神社の9月のお祭りの時に公開される。



真慈悲寺の瓦

京王百草園から大量に出土した。お堂の屋根全体が瓦で覆われていた。平瓦一枚の大きさは縦33.5cm、幅28cm、重さ約3.7kgあり、かつてこのような瓦を何千枚も使ったりっぱな建物があった。

鎌倉時代 13世紀後半 日野市指定有形文化財



ハスの花が描かれた瓦（蓮華唐草文）

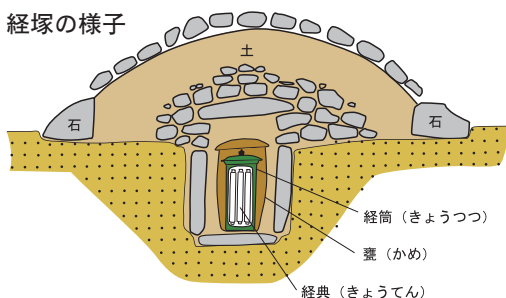
① 仁王塚出土の経筒



建久四年（1193） 永万元年（1165） 長寛元年（1163）
（画像提供 奈良国立博物館）

真慈悲寺の僧侶が大切なお経を入れて経塚に埋め、人々が極楽浄土に行けるようにお祈りした。

経塚の様子



（『特別陳列 経塚出土陶磁展 3 関東・北陸地方に埋納されたやきもの』奈良国立博物館より一部修正、転載）

真慈悲寺の歴史年表

	鎌倉時代				平安時代				
年号	建久四年	建長二年	建武二年	建久三年	文治二年	永万元年	長寛元年	承暦三年	康平五年
西暦	(一一九三)	(一一五〇)	(一一三三)	(一一九二)	(一一八六)	(一一六五)	(一一六三)	(一一〇七)	(一一〇六)

源頼義が前九年の役のとき、戦勝祈願してお礼に八幡宮を再建したといわれている。十二月十四日に真慈悲寺で長嚴という僧が「聖閻曼德迦威怒王立成大神驗念誦法」を写経したという記録あり。

経塚がつくられた。

鎌倉幕府が有尋という僧の願いをいれて真慈悲寺を再興した。

（『吾妻鏡』一月三日条）

後白河法皇の四十九日法要に真慈悲寺の僧侶三人が参列した。

（『吾妻鏡』五月八日条）

経塚がつくられた。

阿弥陀如来坐像がつくられた。

大風（台風）で八月二日に鎌倉の大仏殿、四日に高幡不動尊の山の上の不動堂が崩れ、不動明王坐像が大きく壊れた。

真慈悲寺も被害を受けたと推定される。

8 後北条氏と三沢十騎衆

やく せんごく なな お ち い き ぶ し
□約500年前～400年前の戦国時代、七生地域の武士たちは

北条氏照 (1542～1590)

戦国時代に関東を支配した小田原城主北条氏政の弟。この一族は、源氏の後を受けて実権を握った鎌倉時代の北条氏と区別するために、「小田原北条氏」「後北条氏」と呼ばれている。氏照は、八王子城主となり、七生地域も支配下に置いた。天正18年(1590)に豊臣秀吉軍に攻められ、後北条氏は小田原城を明け渡した。氏照は北条一族の最重要人物の一人とみなされて切腹を命じられた。

七生丘陵に残る中世の城



(『日野市ふるさと博物館紀要第4号』より)

武士たちは、七生丘陵の見晴らしの良い場所に「城」を築いた。守りやすくするために、自然の地形に手を加えてつくった。

七生地域にあった城は、小田原後北条氏が武蔵国(現在の神奈川県北部及び東京都・埼玉県)に兵を進める中で使われたと考えられる。



平山城があったと思われる場所に建っている季重神社



七生地域にあった城

七生地域にあった城

丘陵地の尾根づたいに5つの城が並んでいた。西から、平山城、南平城、高幡城、三沢城、百草城。

現在でもその痕跡を見ることができる場所がある。

三沢十騎衆

七生地域では、地元の^{しょうき ぼ}小規模な武士団である「三沢十騎衆」が、北条氏照の^{もと}下で活躍した。三沢の名は、村内に三つの沢があったことからきている。

天正16年（1588）に氏照は、支配下にあった三沢村の^{さむらいひやくしやう}侍と百姓を八王子城に^よ呼び寄せ、豊臣秀吉との^{かつせん そな}合戦に備えて城を強化する工事を行わせた。八王子城の修理に加わるようにという氏照の^{めいれい つた}命令を伝える書状が現在も高幡山金剛寺に^{ほ かん}保管されている。

しかし、天正18年（1590）6月、八王子城は秀吉軍によって^{らくじやう}落城させられ、7月には本拠の^{ほんきよ}小田原城も落城して、ついに後北条氏は^{めつぼう}滅亡した。



「三沢」の地名の由来となった三つの沢。上左が「湯沢」、上右が「中沢」、下が「小沢（こざわ）」



高幡山^{こんこう じ}金剛寺に、土方家^{ひじかた け もんじよ}文書（三沢十騎衆文書）というものがある。そこには、豊臣秀吉から三沢十騎衆にあてて出された書面が8通ある。その内の4通のあて先は、土方^{や はちろう}弥八郎、土方^{へい ざ えもん}平左衛門、土方^{ぜん しろう}善四郎、土方^{えち ごと}越後となっている。このことから、土方氏が三沢十騎衆の^{そんざい}中心的存在であったということがうかがわれる。

戦国時代の農民の強かさ

1500年代後半、多摩地域は、北条氏照の支配地だった。永禄10年（1567）日野宿の佐藤^{はや と}隼人は、氏照の^{ゆる}許しを受けて日野用水を切り開き、稲作に^{いなさく}利用できるようにし、「米どころ日野」の^{き そ}基礎ができた。

戦国時代の農民は、戦いに^{たたか}巻き込まれないように^{ま こ}色々な^{いろいろ}手だてを考えた。その一つが市



内の各地に発見されている「地下式^{ち か しき}坑」であり、集落の^{しゅうらく まわ}周りや農作地に^{てき}適さない北側斜面に縦穴を掘り、横穴の^{むろ つく}室を造った。

その目的は、①戦乱を^{せんらん さ}避けるために隠れる「シェルター」であり、②大事な物を隠す「^{かく}トランクルーム」との^{せつ}説もある。

明日に生きようとする農民は、「戦争が来たらどうするか」と考え、しっかりと^{らん せ}乱世を^ぬ生き抜いていったのである。

戦国時代の隠れ穴

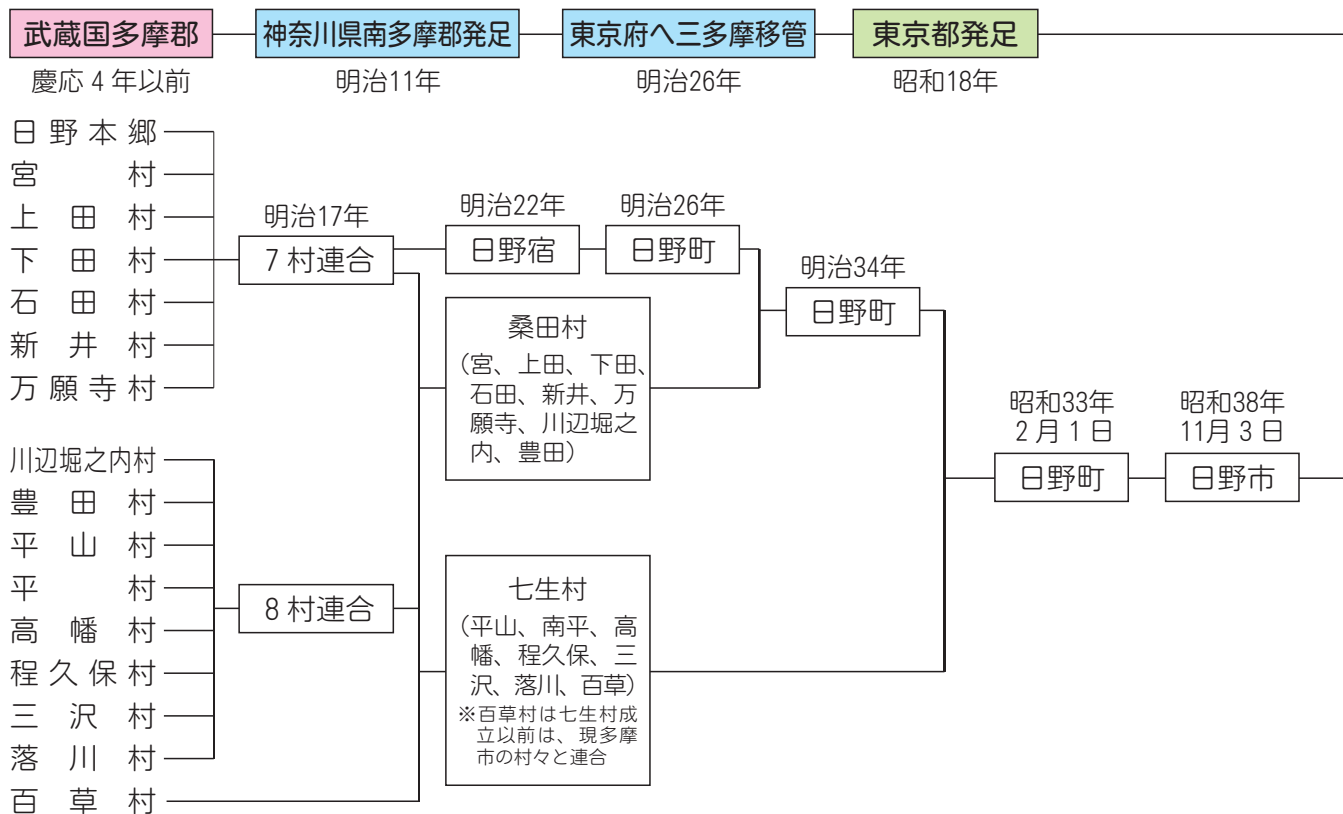
「日野^{ほ とく ぼ}市程久保発見の『義経^{よしつね}の隠れ穴^{さんえい}』残影～『地下式坑^{き のう}』の機能^{よ さつ}を予察する」より



9 えと 江戸時代の日野にタイムスリップ

□今は「東京都日野市」。江戸時代の日野はどんなところだったのだろう。

日野市域の移り変わり



日野市の昔の村の位置と名前



今日の日野市の地図に、昔の村を書き込んでみた。
キミが住んでいる場所は、江戸時代はなんという村だろう。

1603年から1868年までを、日本では「江戸時代」と呼んでいる。身の回りをよく見ると、江戸時代に作られた「物」や江戸時代から伝わる「こと」が見つかる。



江戸時代に建てられた石造りの碑
(南平八坂神社の敷地)



「ほどくぼ小僧
生まれ変わりの勝五郎」表紙

江戸時代に使われていた道具。今使われている道具と比べてみると面白い。



あんどん
行灯



しよくだい
燭台



はこまくら
箱枕



江戸時代の年号紹介

江戸時代の物かどうか調べるときに役立つのが年号だ。石碑や石仏などに年号が書かれていないか探してみよう。

けいちよう 慶長 (1596～1615)	げん な 元和 (1615～1624)	かんえい 寛永 (1624～1644)	しょうほう 正保 (1644～1648)	けいあん 慶安 (1648～1652)
じょうおう 承応 (1652～1655)	めいれき 明暦 (1655～1658)	まん じ 万治 (1658～1661)	かんぶん 寛文 (1661～1673)	えんぼう 延宝 (1673～1681)
てん な 天和 (1681～1684)	じょうきよう 貞享 (1684～1688)	げんろく 元禄 (1688～1704)	ほうえい 宝永 (1704～1711)	しょうとく 正徳 (1711～1716)
きょうほう 享保 (1716～1736)	げんぶん 元文 (1736～1741)	かんぼう 寛保 (1741～1744)	えんきよう 延享 (1744～1748)	かんえん 寛延 (1748～1751)
ほうれき 宝暦 (1751～1764)	めい わ 明和 (1764～1772)	あんえい 安永 (1772～1781)	てんめい 天明 (1781～1789)	かんせい 寛政 (1789～1801)
きょうわ 享和 (1801～1804)	ぶん か 文化 (1804～1818)	ぶんせい 文政 (1818～1830)	てんぼう 天保 (1830～1844)	こう か 弘化 (1844～1848)
か えい 嘉永 (1848～1854)	あんせい 安政 (1854～1860)	まんえん 万延 (1860～1861)	ぶんきゅう 文久 (1861～1864)	げん じ 元治 (1864～1865)
けいおう 慶応 (1865～1868)				



10 ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語

□勝五郎の生まれ変わり物語とは？

藤蔵と勝五郎の生まれ変わり物語を知っているだろうか？ 今から200年ほど前の江戸時代に、程久保村（日野市）と中野村（八王子市）で本当に起こった不思議な出来事なのだ。



文政5年（1822）11月のある日、8歳の勝五郎は、「この家に生まれる前は、程久保の藤蔵という、6歳で亡くなった少年だった。」と語りました。



勝五郎の話では、病気で死んだ藤蔵は、不思議なおじいさんにつれてあの世に行き、勝五郎の家に生まれ変わるように言われたそうです。



勝五郎は、「程久保の藤蔵の家に行ってみよう。」と言いました。ある日のこと、おばあさんといっしょに、程久保の藤蔵の家を訪ねていきました。



勝五郎は、行ったことがないはずの藤蔵の家のことをよく知っていました。藤蔵の両親は、「勝五郎が藤蔵にそっくりだ。」と、とても喜びました。



勝五郎は、生まれ変わりの少年だと大評判になり、「ほどくぼこぞう」と呼ばれるようになりました。江戸から池田冠山という大名が訪ねてきて、生まれ変わりの話を話してほしいとたのみました。



平田篤胤という有名な学者が、江戸に来た勝五郎から、生まれ変わりの話を聞きました。池田冠山も平田篤胤も、勝五郎やおばあさんから聞いたことを、書物に書き、人々に見せました。



勝五郎は、江戸の平田篤胤の塾で1年ほど勉強しました。その後は、お百姓さんとして、他の人と変わらない人生を送りました。父親の跡をついで、竹籠を作る仕事もしました。明治2年（1869）に55才で亡くなりました。

〈池田冠山〉 鳥取の、若桜藩という小さな藩の大名で、江戸で有名な学者でもあった。露姫という6歳の娘を、藤蔵と同じ疱瘡（天然痘）という病気で亡くしとても悲しんでいた。そんなとき、勝五郎の生まれ変わりの出来事を耳にした。露姫も勝五郎のように生まれ変わるかもしれないと期待して、勝五郎の話を聞きに江戸から遥々と訪ねて来たのだ。

〈平田篤胤〉 「国学」という学問を研究する学者。勝五郎の生まれ変わりが評判になった頃に、「人が死んだら魂はどこへ行くのか」ということを研究していた。妻と息子を病気で亡くすという悲しい体験が、研究をするきっかけだった。『勝五郎再生記聞』という本を書き、上皇（退位した天皇）にも読んでもらった。こうして、勝五郎の生まれ変わりの話は、江戸だけでなく、当時都だった京都でも評判になったのだ。

「生まれ変わり」を願う人々^{ねが}

「生まれ変わり」ということは、だれにも証明できないので、本当かどうかは分からない。でも、江戸時代には、多くの人々が、人が生まれ変わることを信じていた。

子供や家族など大切な人の死を悲しむということは、今も昔も変わらないと思う。たとえ別の人になっても、亡くなった人の魂が戻ってきてほしいと願う気持ちは、皆さんにも理解できるのではないだろうか。

「生まれ変わり」は、大切な人との別れを経験した人たちの希望であったのかもしれない。命のかけがえのなさを感じる物語だ。

勝五郎生まれ変わり物語のゆかりの場所を訪ねてみよう！

高幡不動尊金剛寺^{たかはた ふ とうそんこんごう じ}には、藤蔵の墓や記念碑がある。また、程久保には藤蔵の子孫の方が今も同じ場所に住んでいて、藤蔵や勝五郎が、実在の人物だったことが分かる。



藤蔵の墓



生まれ変わりゆかりの記念碑



平成30年（2018）5月に行われた記念碑除幕式^{じょまく}



程久保の六地藏は、藤蔵の生家のすぐ前にある



藤蔵の父が建立した馬頭観音^{こんりゅう} ^{ば とうかんのん}



勝五郎と祖母が藤蔵の家へと歩いた旧道^{きゅう}

詳しく調べたい人は、図書館で『ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語調査報告書』、日野市郷土資料館ブックレット1『ほどくぼ小僧勝五郎生まれ変わり物語』、絵本『ほどくぼ小僧生まれ変わりの勝五郎』を参照するとよい。

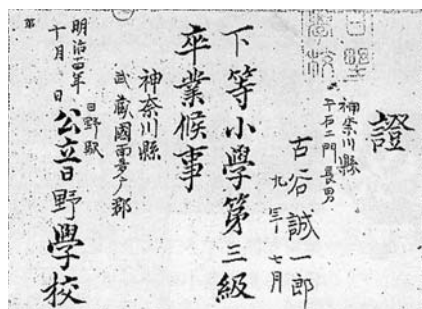


「ほどくぼ小僧 勝五郎生まれ変わり物語」表紙



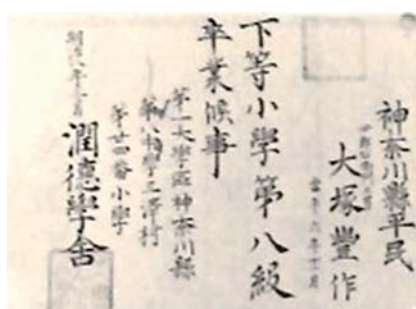
11 さん た ま ち い き か な が わ け ん 三多摩地域は神奈川県だった

□時代は江戸から明治へ そして七生村の誕生



ひ の がっこう いま ひ の だいいちしょうがく
日野学校 (今の日野第一小学校) の卒業証書

「目で見える日野一小120年記念誌」より



じゅんとくがくしゃ いま じゅんとく
潤徳学舎 (今の潤徳小学校) の卒業証書

「潤徳100年のあゆみ」より



ひらやまがっこう いま ひらやましょうがっこう
平山学校 (今の平山小学校) の卒業証書

「記念誌ひらやま」より

上の3枚は、明治時代の小学校の卒業証書だ。書かれていることから、当時は日野のあたりは神奈川県だったことが分かる。

明治4年(1871)、江戸時代の「藩」を廃止して「県」を作った。明治11年(1878)に「南多摩郡」「西多摩郡」「北多摩郡」の三多摩ができ、多摩地域は神奈川県の一部となった。

左下の絵地図からも、今の日野市と八王子市と町田市を含む南多摩郡が、神奈川県になっていたことが読み取れる。



明治24年(1891)頃の神奈川県



右から左に「潤徳学校」と読む。額の左がわに、当時、神奈川県令であった「野村靖」の名前が書かれている。この文字を書いた人だ。

七生村の誕生

明治22年(1889)、それまでの平山村、南平村、高幡村、三沢村、程久保村、落川村、百草村の7か村に西長沼村(今の八王子市長沼町)の一部が合併して、「七生村」ができた。七生村は、昭和33年(1958)に日野町と合併するまで70年間続いた。

明治26年（1893）帝国議会で「東京府及び神奈川県区域変更に関する法律」が可決した。同年4月1日、多摩地域は神奈川県から東京府に編入された。東京に水を届ける玉川上水の管理と、奥多摩地域の水源を確保することが目的であったといわれている。その他にも理由があったという説もある。

多摩地域では反対運動が起きたが、明治22年(1889)に開通した甲武鉄道によって東京との結びつきが深まったこともあって、10年ほどがたつと反対の声は少なくなった。



当時の七生村役場（現在の南平一丁目35番地付近）

昭和22～23年（1947～1948）七生中学校が校舎として使用（『七生村史』より）

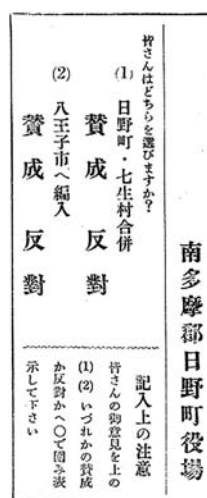


七生村役場跡地前の道。以前は村のメイン道路だった。
左側は金剛寺旧跡公園。



太平洋戦争後の昭和28年（1953）、

七生村と日野町が、「八王子市」と合併する話が持ち上がった。七生村と日野町の人たちは、自分たちだけで合併する道を選び、昭和33年（1958）に、新しい「日野町」が生まれた。昭和38年（1963）11月3日、日野町は市制をしくことになった。私たちの「日野市」の誕生だ。



合併についての住民の考えを聞くアンケート用紙。ほとんどの人が、七生村と日野町との合併に賛成した。

七生村と日野町が合併したころ、七生地域には「多摩動物公園」や「多摩テック」などの観光地ができ、にぎやかなところになっていった。新しい住宅ができ、人口が年々増えていった。

昭和38年（1963）には、日野町が「日野市」として新しい一歩を踏み出した。昔から多くの人々の努力で、日野は成長・発展してきた。そのバトンを引き継ぐのは私たちだ。



「ひの新選組まつり」平成25年（2013）



12 はじめはとぎれていた京王線

□七生村村民がお金を出してできた^{ぎよくなん}玉南電気鉄道



多摩川鉄橋を渡る玉南電気鉄道 1 型

たかはた ふ どうそんこんごう じ ^ひ高幡不動尊金剛寺玉南電気鉄道記念碑

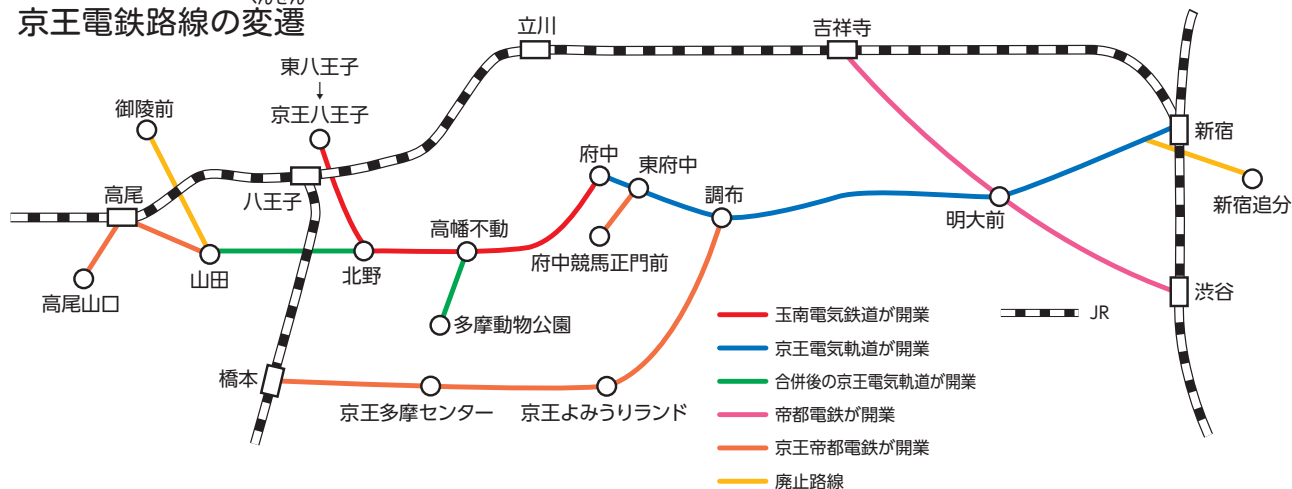
京王電気軌道^{きどう}は、府中^{ふちゅう}から東八王子の間に線路を延ばす工事の補助金を国から出してもらうために、玉南電気鉄道（玉南鉄道）という会社を作った。しかし、国からはお金が出なかったため、玉



南鉄道を開通させるために沿線^{えんせん}の住民がお金を出して後押しした。その中には、7人の七生村^{そんみん}村民もいた。

玉南鉄道が開通したときの話が、高幡不動尊の記念碑（写真左）に刻^{きざ}まれている。

京王電鉄路線の変遷^{へんせん}



年表

- 大正5年 京王電気軌道により新宿と府中間が開通。
- 大正14年 京王電気軌道と沿線住民の出資により、玉南鉄道の府中と東八王子間が開通。開通式が高幡駅で行われた。開業当時、七生村の駅は百草・高幡・平山の3駅だった。
- 大正15年 七生村4番目の駅として南平駅が開業。玉南鉄道が京王電気軌道と合併。
- 昭和33年 日野町と七生村が合併。多摩動物公園が開業。
- 昭和38年 日野町が日野市になる。京王線のイメージを高めた5000系車両による特急運転開始。
- 昭和39年 高幡不動から分岐して動物園線が開通。多摩動物公園駅が七生地域5番目の駅として開業。
- 昭和43年 京王線に初の冷房車両が登場（関東私鉄で初めて）。
- 平成29年 京王線初の座席指定用新型車両5000系が運行開始。

新宿から八王子が一本に結ばれた!!

玉南鉄道ができたとき、新宿～府中間と府中～東八王子間ではレールの幅が異なっていた。そのため直通運転ができず、府中駅が2つあって、乗客は駅の間を歩いて乗り換えていた。そこで2つの鉄道会社が合併をし、玉南鉄道の軌間（レール幅）を京王の軌間に合わせる大工事や車両の改造を行った。昭和3年（1928）、新宿と東八王子間で直通運転が始まった。新宿から東八王子まで1時間24分かかったのが、乗継ぎがなくなり1時間8分に短縮された。



昭和35年（1960）頃の南平駅
提供：京王電鉄株式会社



平成25年（2013）の南平駅

南平駅ができた 玉南鉄道が開業したときには、南平に駅は無かった。地元の人たちが協力して土地の寄付や駅舎工事を行って、大正15年（1926）「南平駅」が誕生した。

はじめは観光地、やがて住宅地（七生地域の変化）

玉南鉄道の開通によって、それまで農村地帯だった七生村の様子が大きく変わっていった。高幡不動尊の門前には、門前町が作られた。参拝客で賑わうようになり、付近には旅館やみやげ物店が建ち並ぶようになった。

京王電鉄により多摩丘陵ハイキングコースや百草園などの行楽施設の整備が行われ、七生村には多くの観光客が訪れた。昭和33年（1958）に、緑豊かな行楽地である七生村と日野町が合併して、新しい「日野町」が誕生した。昭和38年（1963）に「日野町」が「日野市」になり、昭和40年（1965）頃から七生丘陵で大規模な住宅開発が始まった。

京王線を利用して都心に通勤できる緑豊かなこの地域は、人気のある住宅地になっていった。人口が増加したため、多くの小学校や中学校が作られた。

駅名を変えた 玉南鉄道の開通とともに、七生村では、行楽地としてたくさんの人に来てもらおうと力を入れた。やがて大勢の人が観光に訪れるようになった。七生の3つの駅名が変わり、「観光地」を強調する名前になった。

百草 → **百草園** 昭和12年（1937）

高幡 → **高幡不動** 昭和12年（1937）

平山 → **平山城址公園** 昭和30年（1955）

時代とともに変わっていく京王電鉄の車両 提供：京王電鉄株式会社



玉南鉄道 1 型
大正14年（1925）
鉄道開通時の車両



2000系
昭和32年（1957）
通称「グリーン車」
乗客の増加により
車両の大型化



5000系
昭和38年（1963）
新宿～京王八王子
間特急運転開始



6000系
昭和47年（1972）
都営地下鉄乗り
入れ用に製造



8000系
平成4年（1992）
新型通勤車両



新5000系
平成29年（2017）
初の座席指定用
車両

京王線の歴史を知る人の話

大正14年（1925）3月24日の玉南鉄道の開通式は、玉南鉄道の中心だった高幡駅で盛大に行われました。当時は一面が田畑で、その中をスマートな新型電車の走る姿が見え、沿線の人々は驚きと喜びでいっぱいでした。その思いが高幡不動尊境内にある記念碑に刻まれています。



「軌間」

軌間とは、2本のレール間の幅のこと。京王電気軌道の新宿～府中間は、都電と同じ約1372mm。それに対して、玉南鉄道の府中～東八王子（今の京王八王子）間は、1067mmだった。軌間が違いため、新宿～東八王子間の直通運転ができず、府中駅で乗り換えをするので、とても不便だった。ちなみに、JR在来線の軌間は、当時の玉南鉄道と同じ1067mmだよ。



11, 12, 13, 16, 30, 31, 36,
37, 40, 41, 42, 43, 46, 47

せん ぜん 13 戦前にゴルフ場や遊園地があった

たいしょう
□大正14年（1925）の玉南電気鉄道ぎよくなんでんき てつどうの開通かいつうと前後して、七生村に遊園地やゴルフ場など、人々が楽しみに訪れる施設が次々と誕生した。



鮫陵源の入口（郷土資料館提供）

こうりょうげん 鮫陵源

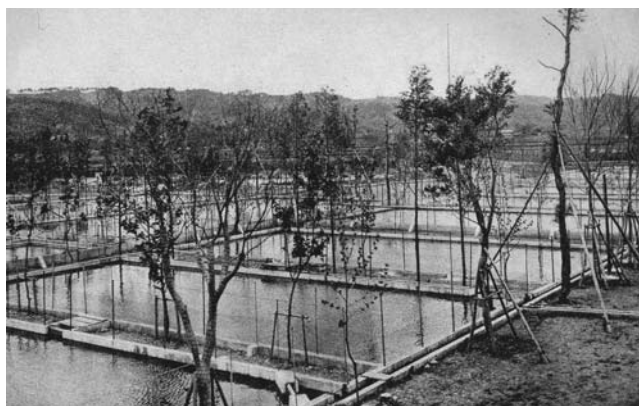
昭和11年（1936）、平山の浅川河畔（今の東平山1丁目）に鮫島さめじま亀之助かめのすけが開園した、遊園地と養魚場を合わせた施設。家族連れや多くの遠足の子供たちでにぎわったが、戦争がはげしくなった昭和18年（1943）に営業を中止。戦後はしばらく料理店として営業したが、昭和39年（1964）に東京都住宅供給公社の平山住宅が建設された。

三角屋根の建物がある正門を入ると、右側には46の養殖池が広がり、アユ、マス、コイ、金魚など50万尾の魚の他、1000羽以上の水鳥が育てられていた。

正門の左側は遊園地で、「大山すべ滑り台」という大きな滑り台や、ブランコ、シーソー、回転機といった遊具の他に、「ウッドボールゴルフ」という鮫陵源だけの遊びも楽しむことができた。



入園料半額券付きの鮫陵源案内（郷土資料館提供）



鮫陵源の養殖池（郷土資料館提供）

平山住宅の中には今でも鮫陵源の跡が一部残っている。北東にあたる部分には鮫陵源の北門をしのいしがき俵はしが残っている。平山住宅の入口あたりの遊び場にも「鮫陵弁財天」の池の一部が残っている。



「鮫陵弁財天」の池の跡

平山ゴルフ場

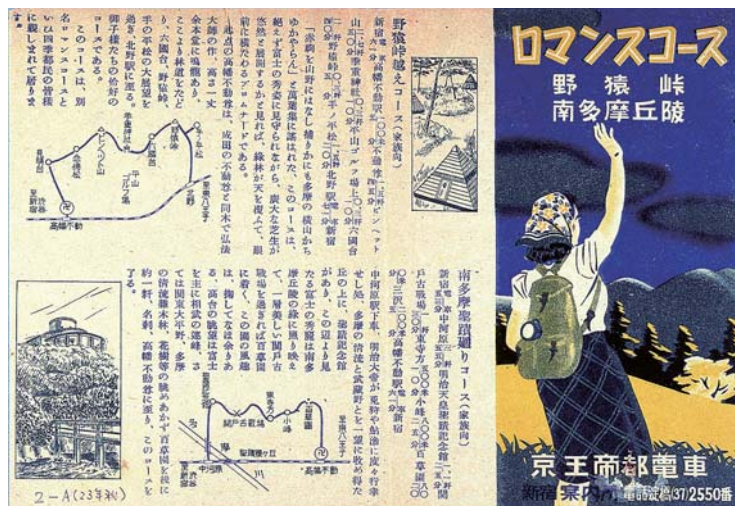


平山ゴルフ場
（『平山をさぐる鮫陵源とその時代』より）

正式には「武蔵野カンツリー倶楽部平山コース」といい、大正14年（1925）5月に開場した。都内で2番目に古いゴルフ場だった。七生丘陵の地形を利用したゴルフコースで、皇族や外国人も多く訪れた。一時は、2000人以上の会員がいた。ゴルフ場の跡地は、戦後になって京王帝都電鉄（今の京王電鉄）が買い取り、その一部は、平山城址公園になった。平山6丁目には、ゴルフ場の開設に協力した杉山又吉の碑が建っている。



七生丘陵のハイキングコース



戦後のハイキングコースのパンフレット（郷土資料館提供）

京王線が開通すると、七生丘陵には二つのハイキングコースが作られた。一つは関戸駅（今の聖蹟桜ヶ丘駅）から百草園を通過して高幡不動尊までの「南多摩聖蹟回りコース」。もう一つは、高幡不動尊から平山を通過して北野駅（または長沼駅）までの「野猿峠越えコース」だった。昭和10年代に入るとハイキングはブームになり、多くの行楽客が訪れた。

これらのハイキングコースは戦後に改めて整備され、大変にぎわった。

戦後にできた遊園地など

多摩テック



昭和36年（1961）に開園した、エンジン・自動車をテーマにした遊園地。本田技研工業社長の本田宗一郎のアイデアで開かれた。七生丘陵の自然の中でゴーカートなどの乗り物を楽しむことができた。平成9年（1997）には深さ1500mで温泉を掘り当て「クアガーデン」ができた。入場者が減り、平成21年（2009）に閉鎖された。

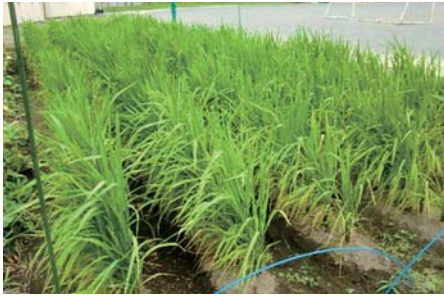
京王れーるランド



京王電鉄社員の手づくりで多摩動物公園駅前に平成12年（2000）にでき、京王電鉄開業100年にあたる平成25年（2013）に完全リニューアルオープンした鉄道展示施設である。平成30年（2018）には別館を開業した。電車の運転シミュレーターや鉄道模型を運転することができる。



14 平山おかぼ 七生村の農業 のうぎょう



稲は、もともと湿原で生育する植物なので、水田で栽培するのが最も適している。陸稲（おかぼ）は、畑でも栽培できる品種の稲だ。水を引くことが難しい土地でも栽培することができる。

平山おかぼは、日照りに強くて味もよいことから、日本各地に広まった。日本海側にある鳥取県ではよく栽培された。

じょうた 「丈太おかぼ」 ものがたり

明治8年（1875）、神奈川県七生村平山（現在の東京都日野市平山）に林丈太郎は生まれました。日野は、多摩川や浅川など豊かな水のめぐみのある「米どころ」として知られた場所でした。しかし、七生村には傾斜地や台地という、水田には向かない土地がありました。そこで人々は山を開き、わずかな土地に畑を作り、作物を育てて暮らしていました。収穫したあわ・ひえ・むぎ・大根などをご飯にまぜた毎日の食事は量が足りず、子供たちはいつもお腹を空かせていました。

台地上の水が十分に使えない地域では、昔から「おかぼ」といって、田んぼではなく畑に種籾をまいて育てる米作りを行っていました。

丈太郎の家でも、毎年「凱旋」という種類のおかぼを育てていました。しかし、当時作っていたおかぼは日照りや病気に弱く、年によっては病気で全滅つしてしまうなど、人々を悩ませていました。丈太郎は、丈夫でお米がたくさんとれるおかぼを作ろうと、土、肥料、育て方などをいつも工夫していました。ある年の秋のこと、丈太郎がお米を収穫しようと畑に出向くと、たくさんの稲の中に、一本だけ穂先がむらさき色をした稲穂があることに気がきました。手に取ってしげしげと稲穂の様子を観察すると、どの粒も丸々と太っています。丈太郎は、その籾を食べずに大切に取っておきました。明治44年（1911）のことでした。

翌年、むらさき色の種籾をまいてみると、去年よりももっと濃いむらさき色の稲穂がたくさん現れました。喜んだ丈太郎は、むらさき色の籾だけを選んで、次の年にまた畑にまいてみたのです。

その年は雨が少なく、地域のおかぼは病気になったり、立派な実をつけることができなかったりと不作でした。ところが、丈太郎の畑のむらさき色の長い「のぎ」（稲穂の先の毛）をもつ稲だけは、丸々と太った立派な実をつけていたのです。丈太郎の畑で育った丈夫で立派なおかぼのことは、たちまち村の中で評判になりました。

丈太郎は惜しげもなく、村のみんなに種籾を配って歩きました。村の人々は大喜びで「丈太おかぼ」を畑にまきました。みんなの暮らしが良くなっていくことを喜ぶ一方で、丈太郎は、全国には同じように水を得にくい土地で、米づくりに苦しんでいる人々がいるにちがいないと考えていました。そこで、この日照りにも病気にも強いおかぼを全国に広めたいと願い、豊田にあった東京府立農事試験場第一分場に種籾を持ち込むことにしました。

丈太郎の願いを受けて、早速試験場では品種の改良と固定にとりかかりました。大正7年（1918）に完成した新しいおかぼは、丈太郎の住む村の名前を取って「東京平山」と名づけられ、推奨品種として全国に送られていきました。昭和初期には、「平山おかぼ」は東京府のおかぼ全収量の三分の一を占めるほどになりました。丈太郎は、大日本農会や南多摩郡農会からその功績を表彰され、全国にその名を知られることとなりました。

（安田尚民原作

一部を郷土教育推進研究委員会で改作）



東京府立農事試験場第一分場



宗印寺にある林丈太郎の碑

「林丈太郎ここに眠る
品種改良家 陸稲「平山」を創む
また平山の名を全国に広めたり
墓石はいとも小なり
されどその功績はいとも大なり」
と、刻まれている。



JA東京中央会が作成した
陸稲「平山」のマーク

途絶えてよみがえった平山おかぼ

昭和20年（1945）以後、日本では水稻が増産されたため、陸稲「平山」の生産は減っていった。やがて、地元の平山でさえ種籾を保存する農家はなくなり、平山おかぼを知る子供もいなくなった。

そこで、平成13年（2001）、小林和男さんをはじめとするJA東京みなみ青壮年部平山地区の有志が、子供たちのために平山おかぼを復活させようと立ち上がった。苦労して種籾を探した結果、茨城県総合農業センターに保存されていることを突き止めた。分けてもらった籾30gを蒔いて栽培が始まり、秋には新たな種籾を得ることができた。こうして、平山おかぼが、再びふるさと平山の地に戻った。

現在は、丈太郎の母校である平山小学校をはじめ、日野市内の小学生が、毎年平山おかぼを育てている。



復活した平山おかぼ



おかぼ栽培に取り組む小学生

農業が盛んだった七生村



←スイカ（西平山）

昭和30年（1955）頃には平山の特産物として有名になった。夏場の気温が低い年は値段が下がるので、生産している場所はわずかになった。



←三沢の梅の看板

江戸時代から三沢は梅の特産地であった。

干し大根→

平山地区だけで6万貫出荷され、とてもおいしいと言われていた。（1貫=3.75kg）



禅寺丸柿



禅寺丸公園（南平4丁目）

←南平の柿

川崎市の王禅寺の山の中で発見されたといわれている禅寺丸柿は、南平で古くから栽培されてきた。南平の禅寺丸柿が市場に出荷されたのは、明治22年（1889）頃からで、初めは馬の背中に積んで八王子や立川の街に売りに行った。



現在に引き継がれる農業

万蔵院のリンゴ（由木農園）→

日野でのリンゴづくりに成功。学校給食にも出る。

←トマト栽培の開発

樽でトマトの栽培を行っている。気候の影響を受けず、おいしいトマトを出荷できるようになった。



15 押し寄せた大恐慌の波

□「恐慌」は、好景気が不景気になるときに起きる。株価の急落、会社の倒産、失業者の増大などの大混乱（パニック）を「恐慌」と呼ぶ。

恐慌のはじまり

第一次世界大戦後、昭和4年（1929）に、アメリカで株価が大暴落したのをきっかけに、世界中で大恐慌が起こった。会社が次々に倒産して、たくさんの失業者が出た。

日本もアメリカに生糸を輸出していたことから、養蚕・製糸業（カイコを育て、まゆから糸をとる）が打撃を受けた。製品が売れなくなったのだ。昭和5年（1930）頃に始まったこの出来事を「昭和恐慌」という。

また、農地の所有者（地主）とそれを借りて農業を行う人（小作人）が対立する「小作争議」も起こった。国は農村を救うため、土木工事を行い、経済更生運動（農村経済を立ち直らせる取り組み）を進めた。

七生村の恐慌への立ち向かい方

昭和6年（1931）当時の七生村は、戸数677戸、人口3,654人（男1,821人、女1,833人）であった。土地のおよそ半分は山林で、田んぼより畑が多く、住民の73%が農業をしていた。農業が中心の七生村では、恐慌からどうやって立ち直ろうとしたのか。主なものとして、2つの対策が行われた。

対策1 経済更生運動で農家のくらしをよりよくする

七生村は、昭和7年（1932）に、国から「経済更生指定村」に選ばれた。また、昭和11年（1936）には、東京府の「特別助成村」に指定された。人々は補助金を使って、共同で農作業を行う設備を整え、農耕方法を工夫して収穫量を増やし、借金を減らそうとした。その後、村長が中心となって組合を設立し、共同作業場を建ててその中に精米機やしょう油を絞る機械などを置き、みんなが利用できるようにした。



麦の脱穀風景。昭和18年（1943）。農作業を共同で行うと、手際よく無駄なくできる。（郷土資料館提供）



三沢の農繁期共同炊事場で勤労奉仕をする女子青年団員。農作業が忙しい時期に、食事のサポートをしている。（郷土資料館提供）

対策2 村の人口の半分を満州国へ移民させる

昭和7年（1932）3月に、中国の東北部に「満州国」ができた。日本政府はその開拓のため、日本から農村の人口の半分を満州国へ移民させようと計画した。七生村でも、国の方針に合わせ、村の人口の半分を満州国に移民させる計画（七生村分村計画）を立てた。



東京府拓務訓練所（『創立40周年記念写真集ななお』東京都七生福祉園1990より）

東京府拓務訓練所

昭和14年（1939）、程久保に東京府の「拓務訓練所」ができた。この場所で訓練生は、「日輪兵舎」と呼ばれる円形の建物で生活し、開拓民となるための訓練に取り組んだ。

昭和20年（1945）10月に廃止された。

満洲へ渡った若者たち

昭和20年3月に、七生村の10代の若者21人が「満州建国勤労奉仕隊」として満州に渡っていった。しかし、8月にソ連軍の攻撃が始まった。七生村の若者たちは命からがら脱出し、昭和21年（1946）8月に七生村へ帰ってきた。

戦後の復興の主力となった七生村の若者

戦後の七生村は、農業改良普及事業（農業の改善をおし進める取組み）として、生活改善、農業改良、農村青少年育成の事業に熱心に取り組み、「生活改善の模範村」として全国から注目された。

特に平山地区では、満州から引き揚げた若者たちを中心に、アメリカの農村青少年組織を模範とした「平山A・H・Sクラブ」（農業家政研究クラブ）が組織された。男子部は農業改良と農業経営の合理化（無駄を省いて能率よくすること）に励み、女子部は作業着の改良や食事の改善などに取り組んだ。



改良した作業着での脱穀作業

昭和26年（1951）



落川出身の五十子巻三という人物がいる。
農林省経済更生部に勤めていた。

昭和12年（1937）に満州国に行き、産業部農務司長、満州国開拓総局総務処長などを務めた。

七生村と、経済更生運動や満州国移民を結び付けたと思われる。

この人物について調べると、当時の日本がどのような考えに立って移民政策を進めていたのかが見えてきそう。



（『日野市史』より）



せん とう 16 戦争は、遠いところのできごと？

□ 今も残る戦争の跡^{あと}を見つめ、平和を考える

しょうわ 昭和6年(1931)に起きた満州事変^{まんしゅうじへん}をきっかけに、日本は戦争への道を歩むことになった。

昭和16年(1941)には、日本はアジアや太平洋^{たいへいよう}を戦場とした太平洋戦争^{とうひやうせん}に突入していった。

では、日野は平和だったのだろうか。

…答えは「いいえ」だ。日野も戦争中に4回ほど空襲^{くうしゅう}を受け、家が破壊^{はかい}されたり、死者^{しや}が出たりした。学校の帰りに戦闘機^{せんとうき}に襲われ、機銃^{きじゅう}で撃たれたが弾^{たま}が外れて助かった小学生^{しょうがくせい}もいた。

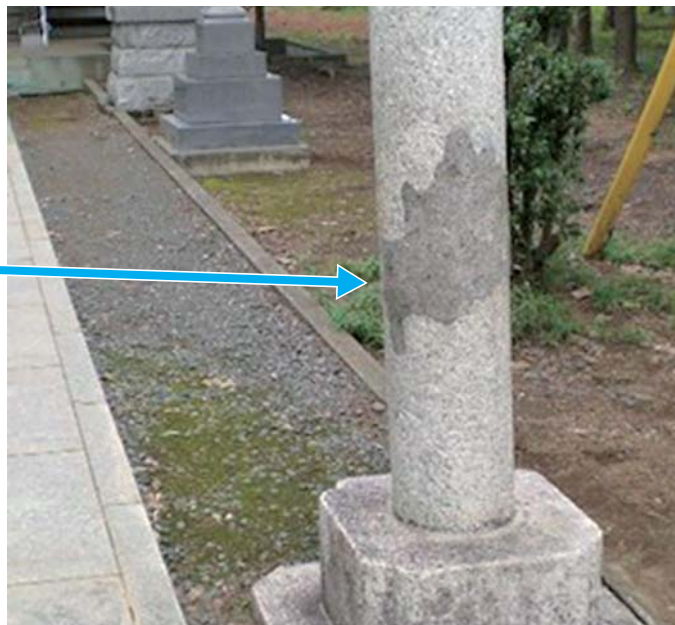


こうりょうげんがくりよう そかい
鮫陵源学寮に疎開していた品川区立大井第一
国民学校の子供 (品川区立品川歴史館蔵)



やさか 八坂神社(南平)の鳥居^{とりい}に残る昭和20年(1945)4月4日の空襲^{くうしゅう}の傷^{きず}あと。爆撃^{ばくげき}でこわれた所にコンクリートをつめて修理^{しゅうり}してある。周りの木々にも、爆弾^{だん}でえぐられた傷^{けい}が今も見られる。

日野町と七生村から兵隊^{へいたい}として海外の戦場に派遣^{はけん}され、約300人が尊い命^{めい}を落とした。



疎開^{そかい}した子供^{こども}たちが大人^{おとな}になって、感謝^{かんしゃ}の気持ち^{おき}で納めた弘法大師^{こうぼうだいし}像^{ぞう}。高幡不動尊^{たかはたふどうそん}の五重塔^{ごじゅうとう}の地下にある。

どう 学童疎開

昭和19年(1944)になると米軍機^{べいぐん}による本土への空襲^{くうしゅう}が激^{はげ}しくなった。大都市では、小学生^{ひなん}を避難^{ひなん}させた。「学童疎開^{がくどうそかい}」だ。金剛寺^{こんごうじ}(高幡不動尊^{じゅとくじ})や南平の寿徳寺^{じゅとくじ}では、赤坂区^{ひかわ}の氷川国民学校や品川区の大井第一国民学校の子供たちを受け入れた。中には、家に帰りたくなくなり、だまって電車^{でんしゃ}に乗ろうとした子がいた。また、疎開中に、家の方^{りやうしん}で空襲^{くうしゅう}があり、両親^{りやうしん}を失った子もいた。

ものぶそく 物不足と松

戦争中、「欲しがりません勝つまでは」という標語が人々の間に広がっていった。物が足りなくなったのだ。松の根から「松根油」を作り、戦闘機の燃料にしようとした。現在の「高幡不動西」の信号の近くに作業場があった。高学年の小学生が根を運んだ。また、松やにからも、燃料を作ろうとした。高幡山（愛宕山）の黒松の幹に、当時の傷あとがくっきりと残っている。



松やに採取は小学生の仕事



松の音が聞こえてきそうな傷口

戦争中の小学生

生活

いつも防空頭巾を持ち歩いた。空襲警報が鳴ると、高幡山にある防空壕に避難した。「宝取り（陣取り）」でよく遊んだ。学校から近所の畑の草取りに行った。

仕事

- 竹をナイフで削って食器づくり
- 食料のどんぐり集め
- 桑の葉摘み、カイコの世話
- 松の根運び
- 松やに取り



一度いなくなった 二宮金次郎像

潤徳小学校の二宮金次郎像は、金属でできていたので、戦争で使うものに作り直すために国に差し出された。

写真は、現在、潤徳小学校の校庭にある二宮金次郎像。戦後になって、保護者の努力で新たに建てられたものだ。



戦争中の出来事を地図に書きこんでみた。七生地域にもさまざまな形で戦争の影響があったことが分かる。

東京都になった

昭和18年（1943）7月、国の方針によって、それまでの東京府（東京全体）と東京市（区部）を廃止し、東京都制になった。

戦争対策を強化する必要から、「帝都」東京の行政組織を一本化して能率的に推し進めるねらいだった。

八坂神社（南平）への行き方

住所：日野市南平4-8-6

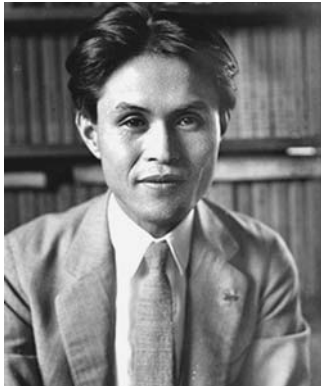
○高幡不動駅から北野街道を西に向けて徒歩15分。

○日野駅行バス（日02）南平下車徒歩6分。



あさひ おか たつみせい か く ころ 17 旭が丘に異聖歌が暮らしていた頃

とよだ わけ
□豊田駅の発着メロディーに「たきび」が使われた訳は



「たきび」の作者異聖歌
(郷土資料館提供)



豊田駅に「たきび」が流れる
(撮影協力 東日本旅客鉄道株式会社八王子支社)

異聖歌は、明治38年（1905）岩手県紫波町で生まれた。童話作家。童謡詩人。昭和23年（1948）、日野町東大助（今の旭が丘）に住み始めた。日野市の風景を題材にした作品を数多く残した。また、日野第四小学校と七生中学校の校歌の歌詞を作った。国語の教科書に載っている「ごんぎつね」の話と作者の新美南吉を世に出した仕事も見逃せない。聖歌がいなければ、私たちが「ごんぎつね」を読むことはできなかっただろう。

昭和48年（1973）に亡くなる。同じ年、地名が「旭が丘」になった。聖歌はその新しい地名を知っていたくれただろうか。



新美南吉
(新美南吉記念館提供)

「たきび」の詩は、聖歌が昭和16年（1941）に日本放送協会から頼まれて、当時住んでいた中野区上高田の風景を基にして作った。

しかし、その年の12月8日に太平洋戦争が始まったため2日間しか放送されず、「たき火は攻撃目標になる」などの理由で、戦争中は放送されなかった。昭和24年（1949）に再開され、人々に愛される童謡となった。

聖歌の詩碑がある旭が丘中央公園では、12月に「たきび祭」が行われている。



たきび祭 令和元年（2019）



多摩八王子競馬場
(現在の東京都立大学、
八王子東高校、
日野第四中学校など)

◎異聖歌の住居

◎ (現在の旭が丘中央公園)

聖歌が暮らし始めたころの旭が丘周辺
昭和22年（1947）11月、米軍撮影の空中写真



聖歌の家は、平成10年（1998）まで現存した。



旭が丘付近の地図 昭和26年 (1951)

大きな口をあけて、ガガガガガ、グワッ。
クレーンの先のドレジャァが、ぼくを、ひとの
みにするようにトラックの上から落ちてきた。
ぼくは、あつと、さげんだ。
知らぬまに、かきねのさざんかの花をむしって
いた。ぼくらの団地は、こうして、できていく
のだ。
しし頭（がしら）よりも大きな口をあけて、ガ
ガガガガ、グワッ。
霜（しも）ばしらの光っている土を、こぼれる
ほど、いっぱい、くわえて、ドレジャァは、ゆ
うらり、ゆうらり、のぼっていく。
そのむかし、シカやイノシシの走っていた土を、
むさしのムサシ・アカネの生えていた土をく
わえて、ガガガガガ、グワッ

ぼくらの団地

上の詩「ぼくらの団地」は、巽聖歌が当時の日野
情景をもとにして作ったものだ。

左の地図は、昭和26年（1951）頃の現在
「旭が丘」と呼ばれる辺りの地図だ。この土地
は、古くから近隣の村の人たちが開墾してきた。

桑畑の記号がたくさん見られるのは、平山村
の人などが、カイコの餌にする桑を育てていた
からだ。だから、以前は、今の旭が丘の辺りは
「平山」と考えられていたのだ。

ところで、昭和20年代の終わりに昭和40
年代の終わりにかけて、日本の経済は目覚しく
発展した。輸出が増大し、国民の所得も増え
ていった。「高度経済成長」の時代だ。東京で
働く人が増加し、住宅が不足した。日野町で
も人口が増えていった。

そこで、昭和34年（1959）日野町は、「市
街地開発地域」の指定を受けて国や都からの
財政援助をもらい、道路、上下水道、学校、
公園などの整備に着手した。また、平山台への
工場建設を誘い（工場誘致）、帝人東京研究
センターや東芝タイプライターなどの会社が次々
とできた。平山台工業団地の誕生だ。

この事業は昭和48年（1973）に完了した。
工業団地と住宅地の町に姿を変えた平山台地
区は、「旭が丘」と呼ばれるようになった。

文化の香りただよ 七生地域

こじまぜん たろう
小島善太郎 (1892～1984)

日野市百草で晩年を過ごした。日本の洋画
の歴史に大きな功績を残した洋画家。百草776
に小島善太郎の記念館「小島善太郎 百草画
荘」がある。

晩年を中心とした絵画のほか、さまざまな
ゆかりの品を展示している。



小島善太郎



百草画荘

あきまためこ
秋間為子 (1861～1933)

平山村に生まれた。後の豊田学校初代校長大沢教之助の下で勉強した。
帝国医科大学で看護婦になる勉強をした。女子教育の大切さを考え、明治34
年（1901）東京市本郷区（現在の東京都文京区）に「錦秋女塾」を開いた。

為子は郷里七生村を忘れず、故郷の発展のための活動も行った。



秋間為子



た ま きゅうりょう 18 さかんだった多摩丘陵ハイキング

□七生村は東京都民の憩いの場所だった



や えんとうげ しょうかい
野猿峠ハイキングを紹介する車内広告（郷土資料館提供）

左の広告は、むかし京王帝都電鉄の車内に掲示されていたもの。電車に乗って、春の心地よい風に当たりながら、出かけてみたくなる。



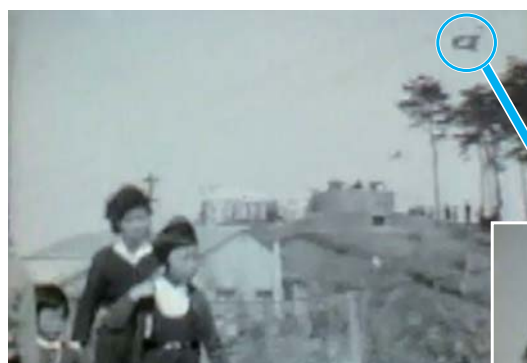
昭和40年代の京王線新宿駅の看板

野猿峠は京王線を代表する行楽地だった！

地元では「猿丸峠」という人もいます。ここに大勢の人がやってきた。家族や仲間とのハイキングを、人々は楽しもうとした。



ハイキングを楽しむ人々（昭和40年代）
（郷土資料館提供）



ハイキングコースに翻る
京王帝都電鉄の社旗



平山城址公園でのフォークダンス（昭和40年代）（郷土資料館提供）



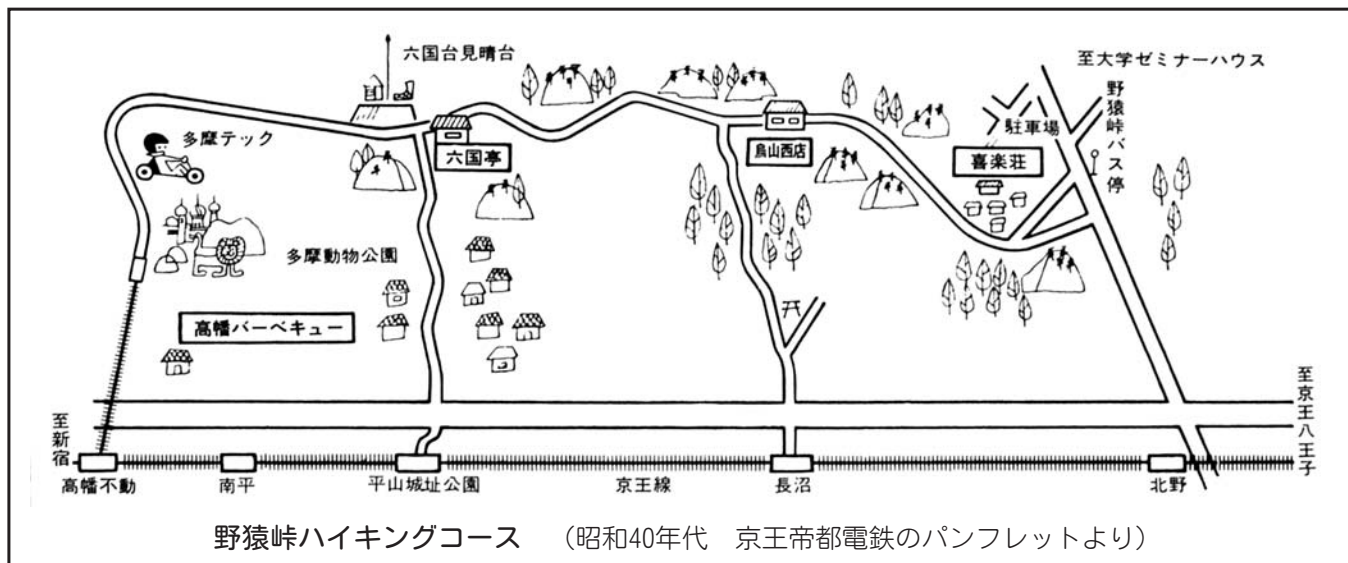
平山城址公園入口付近にあった
トーテムポール（昭和31年頃）

ハイキングの人たちは、高幡不動駅から七生丘陵を登り、浅川をながめながら野猿峠を目指して行った。休日に、日野駅近くに住んでいる人が、家族で歩いて往復したという話もある。

昭和30年（1955）に、「平山駅」が「平山城址公園駅」に名前を変えたのは、ハイキングコースに平山城址公園ができたからだ。

七生地域にある京王線の各駅からハイキングコースに上がっていくことができる。ハイキングを終えたら、近くの駅まで下って家路につくことができた。

ハイキングコースをたずねて



高幡城址

本丸があった跡^{あと}と考えられている。
見張り台^{ていど}程度の広さだ。



多摩動物公園

外から動物が入らないように柵^{さく}がしてある。
開園^{かいえん}した頃、このあたりに入口があった。



京王研修センター

丘の上に線路がある。今にも電車が走ってきそうだ。



すえしげ
季重神社

ふもと
麓に住んでいた平山季重をまつ
祭ったもの
だ。建てられた時期は、はっきり
と分からない。



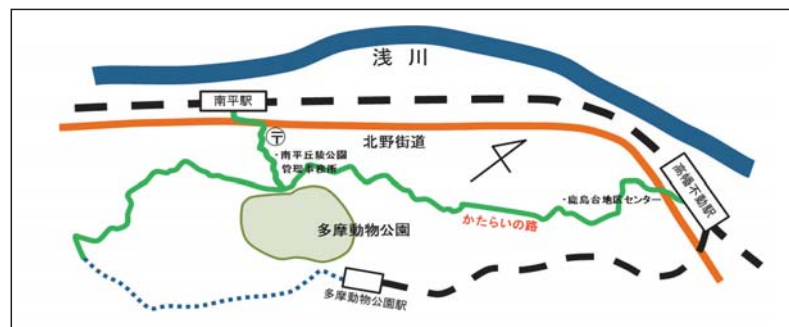
ろっこくたい
六国台

この場所は、展望台^{てんぼうだい}だった。むかしは、旧七生村^{きゅうしゅう}を見ることができた。



野猿峠の水呑み場^の

野猿峠のバス停に残されている。峠をこえた馬が休めるようにと作られたものだ。

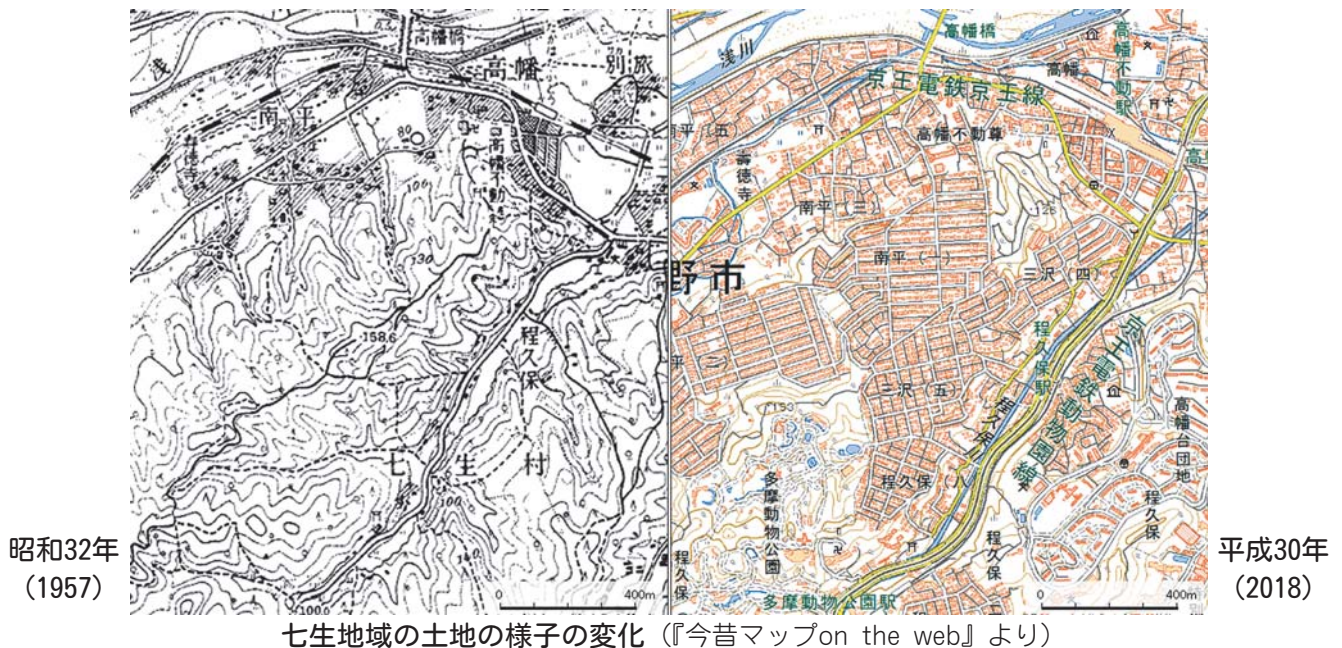


野猿峠ハイキングコースの一部は、現在も「かたらいの路^{みち}」として残っているんだよ。



19 人気を集めた多摩動物公園

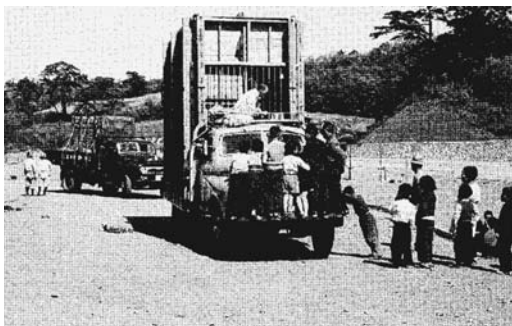
□動物園ができて 新たな人の流れが生まれた



昭和23年 (1948)、東京都は、上野動物園の入場者が多くなり過ぎたため、第二動物園を作ろうと考えた。しかし、その考えを実現することはできなかった。

昭和26年 (1951)、七生村が東京都に対して、「動物園を作るならぜひ七生村に」という働きかけを行った。その頃、七生村では、観光に力を入れて村を豊かにしようと考えていた。七生村と東京都の願いがぴたりと重なった。また、京王帝都電鉄では、行楽客を呼べるような場所を求めている。そこで、動物園用地を買い取るための費用を負担したり、建物などの寄付を行ったりして全面的な支援を行った。

こうして昭和33年 (1958) 5月、程久保の地に多摩動物公園が誕生した。



各地の動物園から動物たちが運ばれてきた。地域の子供たちが珍しそうに見ている。

開園を告げるポスター。「日本一の自然動物園」が誇らしげ。



((公財)東京動物園協会)



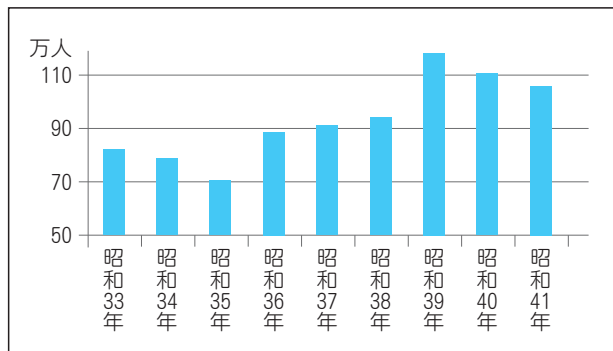
開園を待つ人々

開園日当日は、開門を待つ人であふれていた。あまりにも多くの人を訪れたため、周りのお店の準備が追いつかず、文房具店が家のお釜で炊いたおにぎりを提供するなど、てんやわんやだったそう。京王帝都電鉄では、新宿から高幡不動までの切符が売り切れてしまい、手書きの切符を出したという。

また、帰りの電車に乗れず、豊田駅や日野駅まで歩いていく人の行列ができるほどだった。

(「聞き書き日野の昭和史を綴る『多摩動物公園開園始末』」より)

開園後の多摩動物公園の歩み



入園者数の変化



昭和63年（1988）に完成した昆虫生態園

開園10年までの主な出来事

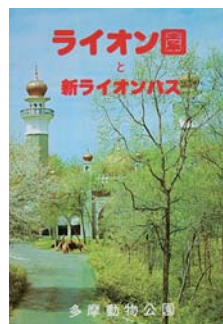
年代	主 な 出 来 事
昭和23年（1948）	第二動物園を作る計画があったが、実現されず。
昭和30年（1955）	七生村から程久保の山林が、京王帝都電鉄の協力で都に寄付された。 七生村報に「自然動物園設置準備進捗中」の記事が出た。
昭和31年（1956）	1月、『多摩動物公園』が正式な名称として決まり、工事が始まった。 動物が運ばれ始めた。
昭和32年（1957）	ヤギ山、カモシカ山、ラクダ放牧場などの動物舎の建設や水道工事が行われた。
昭和33年（1958）	開園までにオランウータンなどたくさんの動物が集められた。 5月5日、多摩動物公園が開園した。 大型のシカが柵から飛び出し、とらえ戻すのに1か月かった。
昭和34年（1959）	交通の不便さ、園内の整備不良のため入園者減少。 チンパンジーの芸が始まった。
昭和35年（1960）	アフリカ産の動物を収容する土地を買収した。
昭和36年（1961）	昆虫実験飼育室ができ、昆虫の飼育実験が始まった。
昭和37年（1962）	アフリカ園の一部が公開された。
昭和38年（1963）	開園5周年を迎えた。
昭和39年（1964）	4月、京王帝都電鉄動物園線が開通した。 京王帝都電鉄多摩動物公園駅開業。 5月、ライオン園（ライオンバス）が完成した。
昭和40年（1965）	日本で2番目のオランウータンが産まれた。
昭和41年（1966）	昆虫園の新しい敷地にチョウの温室が完成した。
昭和42年（1967）	日本で初めて、シロオリックス2頭が来園した。

『10年のあゆみ（多摩動物公園）』より作成

「ライオンバス」

はな が 放し飼いになっているライオンの群れの中を走るライオンバスは、開園当時の園長林寿郎のアイデアで誕生した。人気を集めた一方、とても危険。万が一にも、ライオンに襲われてはならない。そのため、窓を強化ガラスにしたり、定期的に安全対策訓練をしたりと、安全に配慮している。

（現在、工事中につき運休）



ライオンバスのパンフレット（左）と見学コースを進んで行くバス（右）（多摩動物公園所蔵資料）

世界とつながる多摩動物公園



平成30年（2018）7月、多摩動物公園第183頭目のキリンの赤ちゃんが生まれた。これまでに生まれた赤ちゃんは、全国の動物園や中国の北京動物園などに贈られた。



オーストラリア園に迎えられたタスマニアデビル

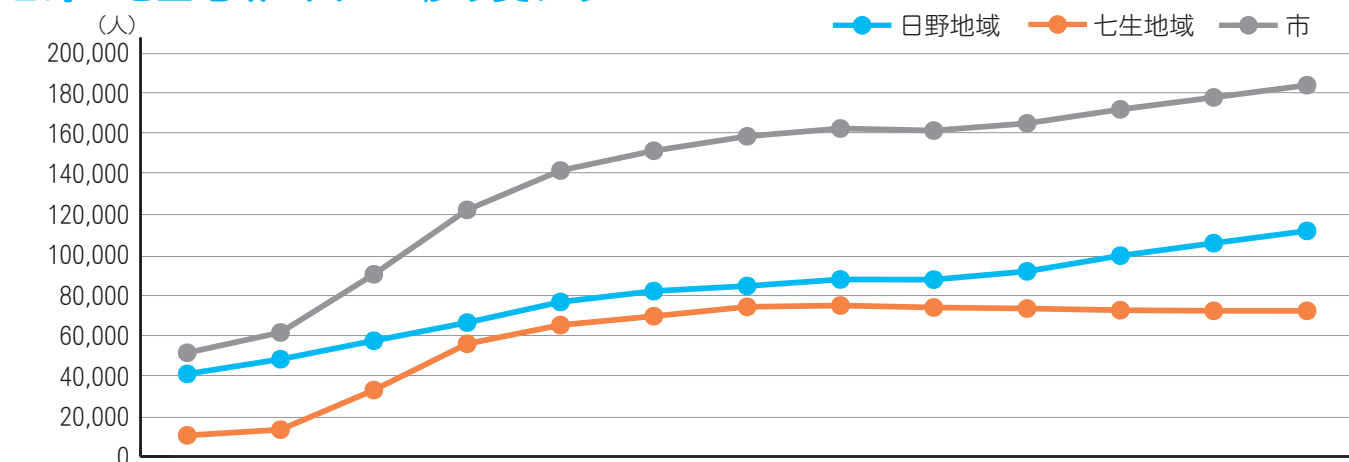
多摩動物公園は、日本で初めてタスマニアデビルの飼育に取組んだ。



20 学校が次々とできた

□大きな住宅地や団地が造られていった頃

ひの なな お ちいき じんこう うつ か
日野・七生地域の人口の移り変わり



	昭和38 (1963)	昭和40 (1965)	昭和45 (1970)	昭和50 (1975)	昭和55 (1980)	昭和60 (1985)	平成元 (1989)	平成5 (1993)	平成10 (1998)	平成15 (2003)	平成20 (2008)	平成25 (2013)	平成30 (2018)
日野地域	41,075	48,384	57,588	66,606	76,877	82,279	84,818	88,050	87,990	92,095	99,889	106,124	112,204
七生地域	10,512	13,332	33,044	56,064	65,367	69,789	74,447	75,100	74,123	73,612	72,768	72,472	72,463
市	51,587	61,706	90,632	122,670	142,244	152,068	159,265	163,150	162,113	165,707	172,657	178,596	184,667

(人)

日野市内の小・中学校の開校年

開校年	学 校	開校年	学 校
昭和40年 (1965)	日野第六小学校	昭和53年 (1978)	平山台小学校
昭和44年 (1969)	日野第八小学校	昭和54年 (1979)	東光寺小学校
昭和45年 (1970)	百草台小学校	昭和55年 (1980)	三沢台小学校
	日野第三中学校		大坂上中学校
昭和46年 (1971)	滝合小学校	昭和56年 (1981)	平山中学校
昭和47年 (1972)	高幡台小学校	昭和59年 (1984)	仲田小学校
昭和48年 (1973)	日野第七小学校	平成14年 (2002)	夢が丘小学校※1)
	日野第四中学校	平成18年 (2006)	平山小学校※2)
昭和49年 (1974)	南平小学校	平成20年 (2008)	七生緑小学校※3)
昭和52年 (1977)	旭が丘小学校	昭和39年 (1964) 以前にできた学校 日野第一小学校、日野第二小学校 (現、豊田小学校)、日野第三小学校、日野第四小学校、日野第五小学校、潤徳小学校、平山小学校、日野第一中学校、日野第二中学校、七生中学校 (小学校の開校年は、P4～5の年表を参照)	
	程久保小学校		
	三沢中学校		

※1 程久保小学校と高幡台小学校の統合による。

※2 平山小学校と平山台小学校の統合による。

※3 百草台小学校と三沢台小学校の統合による。

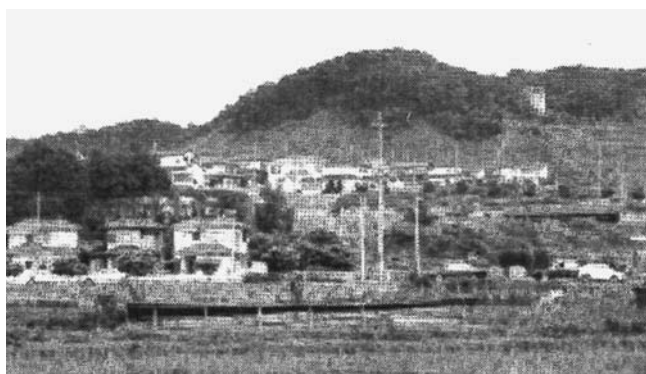
七生丘陵^{きゅうりょう}に住宅ができた頃と、現在のようす^{げんざい}



もくさだんち^{もくさだんち}しゅうへん^{しゅうへん} 昭和44年(1969)頃 (郷土資料館提供)



百草団地とその周辺 平成30年 (2018)



みなみだい^{みなみだい}ら 南平4丁目周辺 (1970年代) (『南平小開校十周年記念誌』より)



南平4丁目周辺 平成30年 (2018)



七生地域^のに長く住んでいる野澤一弘^{のざわかずひろ}さんの話

約30年前から南平に住んでいます。当時の南平は、^{すぎばやし}杉林や^{たんぼ}田んぼがたくさんありました。やがて、丘陵地が切り開かれて新しい住宅が建ったり、北野街道^{かい}ぞいの田んぼにお店やビルが建ったりして、町の姿が^{すがた}大きく変わっていきました。

団地の新たな取組み



高幡台団地の夏祭り。大学生もいっしょになって盛り上げる。

高幡台団地^{じちかい}自治会の方の話

団地に住む人の中には、^{れい}高齢のため駅まで買い物に出かけにくい人もいます。そこで現在は、週に数回、駅近くのスーパーマーケットが車で出張販売^{ちやうはん}に来ています。

また最近^{さい}では、団地と明星大学^{めいせい}が協力して、学生さんが団地に住めるようにしました。学生さんは、高齢者の生活を手助けするボランティア活動をしています。

毎週ふれあいサロンを開いて交流したり、毎年の夏祭りで、大学のゼミの人たちがお店を出したりするなど、団地の人たちを元気にしてもらっています。



21 どんどんつながる・ひろがる

□他の地域とつながる「道」を造り、豊かな七生をつくりたい “橋”

七生地域は川（多摩川・浅川）と丘陵地に囲まれている。昔から、となりの地域に出かけることが大変な土地だった。今からおよそ1000年以上前、この地域の人は、「牧」で育てた馬を税として納めるために平安京（今の京都）まで歩いて行った。道は舗装されておらず、細く、でこぼこしており、登り下りもあった。もちろん、現在のような立派な橋などなく、大変な思いをして馬を連れて行ったことだろう。

大正の終わり頃になると、七生村に電車が走り始め、バスが高幡～立川間で運行を始めた。そのときも、“川を渡る”という大きな問題を解決しなければならなかった。

川に囲まれた地域に欠かせない物、それは“橋”だ。

浅川にかかるコンクリート橋

	橋の名前	最初に橋ができた年	橋の長さ(m)
①	高 幡 橋	大正12年 (1923)	116.6
②	平 山 橋	昭和11年 (1936)	126.6
③	新 井 橋	昭和35年 (1960)	136.6
④	一 番 橋	昭和38年 (1963)	130.0
⑤	滝 合 橋	昭和43年 (1968)	120.0
⑥	ふれあい橋	平成3年 (1991)	148.0



滝合橋 昭和40年頃

（『市制施行20周年記念写真集「日野のあゆみ」』より）



橋の名前は どうやって決める？

ふれあい橋は、人だけが通れる橋「人道橋」としてつくられた。市民に名前を募集したんだよ。その中から候補を選び、投票で決めたんだ。他の候補には、“かわせみ橋”などがあった。



『広報ひの』第750号より



昔の浅川では水害が多く起こっていた。

台風や大雨などによって橋が流されてしまうこともあった。それを防ぐために、取り外しのできる一本橋をかけているところもあったんだよ。

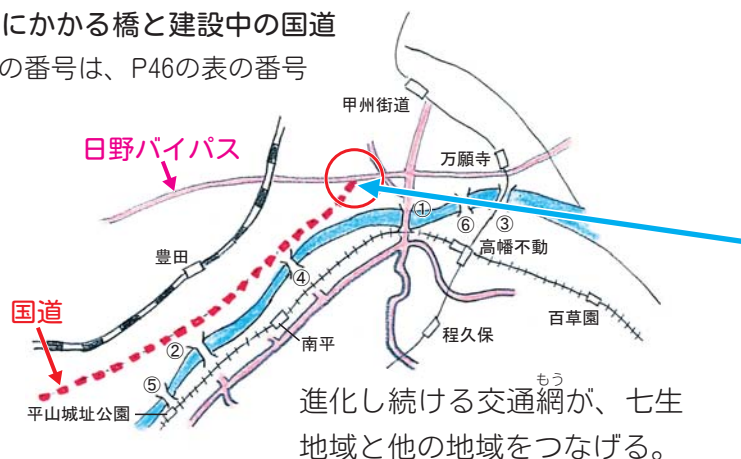
橋の他にも七生地域と他の地域をつなぐ手立てがある

平成19年（2007）に「日野バイパス」が開通した。このことで、周辺の道路の混雑が減るとともに、中央自動車道へのアクセスが良くなった。

さらに現在も整備中の道路があり、これからもどんどんのび、便利になると言われている。次のページの地図に赤の点線で示した道が、現在建設中の国道だ。

浅川にかかる橋と建設中の国道

※橋の番号は、P46の表の番号



進化し続ける交通網が、七生地域と他の地域をつなげる。



日野バイパス この坂下に、新しくできる国道がつながる。(地図の赤丸の場所)

「多摩都市モノレール」

～京王線、京王バスに加えて便利な移動手段ができた～

多摩都市モノレールは、平成10年（1998）に上北台駅～立川北駅間が先に開通し、平成12年（2000）に立川北駅～多摩センター駅間が完成して、全線開通した。

高幡不動駅から多摩センター駅までの丘陵地の地形をものとししないで、多摩都市モノレールは巧みに走り抜けていく。



初日の出を浴びて走る（新井橋付近）



モノレールがトンネルを通り抜ける場所がある



中央大学・明星大学駅付近



夢が丘小を背景に走行するモノレール



多摩都市モノレールは、多摩センター駅から上北台駅の間にある5市のたくさんの街を結んでいる。

利用客が多い駅は、立川北、多摩センター、中央大学・明星大学、立川南の順で、次いで高幡不動が5位にランクインしているぞ。

モノレールは、日野市を南北に走っている。市内の各駅は、大学や会社に通う人だけでなく、観光客の利用も多いんだ。



下から見たレールの終わり
多摩センター駅



上から見たレールの終わり
平成30年（2018）

多摩センター駅のレールの終わりは左の写真のようになっている。多摩センター駅から八王子や町田へ、上北台駅から箱根ヶ崎へと、もっとレールがのびる話もある。



22 図書館で 七生をもっと調べてみよう！

図書館ってどこにあるの？

日野市には、7つの図書館があり、そのうちの3つが七生地域にある。下の赤の数字の図書館だよ。

まずは、あなたのうちの近くの図書館に行ってみよう！ また、移動図書館「ひまわり号」が市内を走っているんだ。

- 1 中央図書館
- 2 多摩平図書館
- 3 日野図書館
- 4 平山図書館
- 5 高幡図書館
- 6 百草図書館
- 7 市政図書室

(赤の番号が七生地域の図書館)



移動図書館ひまわり号



平山図書館



高幡図書館



百草図書館

分からないことは図書館の人に聞いてみよう！

図書館には、百科事典や図鑑など調べものに役立つ資料がたくさんある。図書館のホームページや館内の検索コーナーで、どんな資料がどこにあるのか調べることができるよ。

また、市内の図書館には無い資料でも、市外の図書館などから取り寄せられることがある。

探している本が見つからないときや調べ方が分からないときは、図書館の人に聞いてみよう！

図書館の本はどうやって借りるの？

図書館の本を借りるには、利用者カードが必要だよ。初めて本を借りるときに、自分の利用者カードを作ろう！

利用者カードを作るには、名前、生年月日、住所、電話番号を登録用紙に記入することが必要だ。

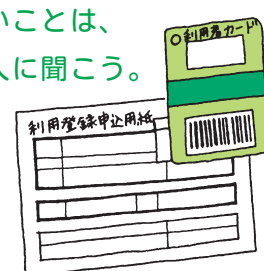
また、図書館の資料は、近くの図書館やひまわり号に取り寄せて借りることもできる。ひまわり号の巡回場所や日時は図書館のホームページや図書館報「ひろば」で調べてみてね。



検索コーナー



分からないことは、
図書館の人に聞こう。



編集を終えて

表紙を眺めていたら、七生地域のはるか上空に下弦の月を見つけた。下弦の月は地球の公転軌道上にあるので、私たちを乗せて地球は、約3.5時間（3時間30分）後に、いま下弦の月が見えている場所に到達することになる。

私たちが見ている月を、平山遺跡に土器を残した人々が、季重が、儀海が、三沢十騎衆が、勝五郎が、丈太郎が、疎開してきた小学生が、聖歌が…みんな見上げたに違いない。その時、どんなことを考えていたのだろうか。

冊子づくりのために調べていくうちに、七生地域の人物や出来事や場所や物などに関して、知らなかったことが次々と見えてきた。紙面の都合で、止むを得ず掲載をあきらめた事柄も多い。各ページに取り上げられている様々な情報を入り口にして、書かれていないことを突き止める仕事は、小学生の皆さんにお任せしたい。

「歩こう 調べよう ふるさと七生」を編集するにあたって、個人や会社や団体など多数の方々が、冊子編集の意図に賛同され、快くご協力くださった。皆様に深く感謝申し上げる。

※以下の写真提供、資料提供、取材協力、執筆等ご協力いただいた皆様及び郷土教育推進研究委員の敬称や職名などは、紙面の都合上省略させていただきます。

◆**写真、資料提供**：井上博司・小林和男・小林静子・金野啓史・佐藤元雄・志村章・須藤明人・塚本隆史・西股総生・野村文子・福原冬彦・東陽一・安田尚民／京王電鉄株式会社・京王百草園・公益財団法人東京動物園協会・国土地理院・佐藤彦五郎新選組資料館・品川区立品川歴史館・東京都農業協同組合中央会・高幡不動尊金剛寺・新美南吉記念館・百草八幡神社氏子会／奈良国立博物館・東京都教育委員会・社会福祉法人東京都社会福祉事業団東京都七生福祉園・府中郷土の森博物館／郷土資料館・生涯学習課・日野第一小学校・潤徳小学校・南平小学校・平山小学校

◆**取材協力**：小林和男・野澤一弘・渡辺妙子／京王電鉄株式会社・吉平美術店・紅葉台木曽馬牧場・寿徳寺・真照寺・宗印寺・高幡台団地自治会・高幡不動尊金剛寺・多摩都市モノレール株式会社・東日本旅客鉄道株式会社八王子支社・日野宿発見隊・季重神社氏子会・八坂神社氏子会・武蔵一之宮小野神社・武蔵一之宮小野神社氏子会・百草八幡神社氏子会／小島善太郎記念館・七生丘陵調査団・新選組のふるさと歴史館・中央図書館

◆**平成29年度・30年度郷土教育推進研究委員、執筆**：會田満・小杉博司・吉野美智子・高橋清吾／池田泰章・猿田恵一／秋田克己／青木英俊・井上晴香・大久保有紀・木村文子・久保田聡・草木利香・島谷直樹・島方健太・渋谷崇伸・下谷明希子・白川未来・鈴木崇士・杉山由佳・関根夕紀・高橋秀之・永吉智洋・西谷亜希子・堀内正人・山口裕衣／岡元大輔・松本匡広・小黑恵子・北村澄江・秦哲子・矢口祥有里

◆**企画・編集**：清野利明・金野啓史・松澤茂久・正留久巳・阿井康之・宮澤功一／中島和夫・中村康成・廣木智之

◆**令和元年度改訂**：正留久巳・上国料一志・猿田恵一・秋田克己／金野啓史・小林正明・白川未来・山口裕衣・高橋秀之・田中淳子・秦哲子・北村澄江・小黑恵子・矢口祥有里／清野利明・中村康成・菅野雅巳・宮澤功一

◆**主な参考文献**：「日野市史」、「七生村史」、「日野市戦後教育史」、「江戸名所図会」、「武蔵名勝図会」、「新編武蔵風土記稿」、「広報ひの」、「日野のあゆみ」、「聞き書き日野の昭和史を綴る」、郷土資料館リーフレット（「程久保小僧勝五郎生まれ変わり物語調査報告書」・「日野の明治・大正・昭和」・「七生丘陵自然とくらし」・「日野市百草倉沢地区散策ガイド」）、「日野市ふるさと博物館紀要第4号」「まちに電車がやってきた～京王線と日野市の軌跡」、「多摩のあゆみ第11集・第166集」、「平山をさぐる 鮫陵源とその時代」、「吾妻鑑必携」、府中郷土の森ブックレット（17「よみがえる古代武蔵国府」・18「京王電車の開通と府中駅」）、「武蔵武士団」、「京王電鉄五十周年誌」、「京王電鉄100年のあゆみ」、「多摩の鉄道沿線古今ご案内」、「鉄道ピクトリアル734号【特集】京王電鉄」

歩こう 調べよう ふるさと七生

令和2年（2020）3月31日 第2版

事務局 日野市立教育センター
〒191-0042 日野市程久保550番地
電話 042-592-0505

発行者 日野市教育委員会

印刷・製本 システム印刷株式会社
〒191-0031 日野市高幡1012-13

（無断転載及び複製禁止）





日野市教育委員会

日野市立

小学校

なまえ